

(財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

5

2008年10月
ニッセイ基礎研究所

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2007年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2007年度の事業の実績について、過去5年間のデータとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と07年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、「創る」「育つ」「観る」をキーワードにした事業展開が行われている。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。
- **【育つ】**: アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。
- **【観る】**: 見る楽しみを知ってもらうため、舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

07年度はこうした3つのコンセプトに基づき、次のような事業が実施された。

①創る: 創造事業

- まず、「創る」に対応した創造事業では、「わたしの青い鳥2007」、「ダンスラボ2007「迷路のつくりかた」、「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」、「青春の門」、「リーディングセッション」の5本の事業が実施された。
- 07年度は、「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」、「青春の門」2本のプロデュース作品が創られ、「青春の門」については東京公演が行われた。07年度の創造事業は、公演数は24回、入場者数は5,224人と、全国展開型のプロデュース作品が創られた06年度に比べて公演回数、入場者数ともに少ないが、プロデュース作品はともに北九州市に縁の深い作品であり、北九州芸術劇場からの発信として全国から注目された。

図表1-1 事業実績の概要(2003年度～2007年度)

	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度			2007年度		
	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数												
創造事業	3	35	13,350	4	15	3,292	6	45	9,332	7	61	27,107	5	24	5,224
公演事業	15	35	22,079	23	46	26,361	24	42	21,294	18	45	29,813	22	49	32,378
共催・提携事業	5	8	7,382	6	15	6,211	6	13	6,642	7	16	7,259	11	28	11,869
オープニング企画	2	2	1,592	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
演劇祭	2	9	987	2	9	1,231	2	7	2,779	2	8	1,110	3	8	1,724
公演事業計	27	89	45,390	35	85	37,098	38	107	40,047	34	130	65,289	41	109	51,195
学芸事業	—	219	2,404	—	320	4,734	—	297	6,327	—	291	6,758	—	283	6,200
総合計	27	308	47,794	35	405	41,829	38	404	46,374	34	421	72,047	41	392	57,395

	総席数	入場率								
公演事業	50,756	89.4%	41,808	88.7%	48,575	82.4%	70,065	92.7%	60,036	85.3%

- さらに「わたしの青い鳥」や「ダンスラボ」、「リーディングセッション」といった参加型・育成型の事業も行われ、創造事業は幅広い事業構成となっている。
- 創造事業全体の入場率は93%で、特に、「ダンスラボ」と「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」の2本は99%の高い入場率となっている。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、「表現教育推進事業」、「学校出前演劇ワークショップ」、「劇場塾」(戯曲講座、俳優実践講座)、「チャレンジ! えんげき」、「バックステージツアー」、演劇やダンスのワークショップなどの10事業で174回のアクティビティが実施され、4,587人が参加した。
- 07年度は、表現教育推進事業を2校で実施するとともに、中学校の校内発表会の作品指導を行い、実践回数が102回、参加者数が2,166人と、回数・参加者数を増やしている。
- 06年度に実施校数を大きく増やした「学校出前演劇ワークショップ」は(05年度:4校→06年度:12校)、07年度は13校で実施され、より多くの小学校で演劇の楽しさと効果を実感してもらおう機会を提供している。
- また、07年度からは「高校生のための演劇塾」を開催、計6回の講座に70人が参加した。
- 創造参加としては、7事業で109回のアクティビティが行われ、1,613人が参加した。05年度にスタートした次世代クリエイターの作品を紹介する公演事業「Next Generation's Theater (NGT)」も3年目を迎えたほか、「わたしの青い鳥」、「ダンスラボ」、「北九州ドラマ創作工房」、「シアターラボ」など多くの事業が継続して実施されている。
- 創造参加を加えた学芸事業全体としては、17事業で283回のアクティビティが行われ、参加者数は、6,200人となっている。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した公演事業では、大ホールで4本の人気の高い商業演劇・ミュージカル公演が行われた。また、中劇場を中心に、「イッセー尾形の一人芝居」、青年団などの小劇場・現代演劇公演、落語の独演会や狂言、子供のためのシェイクスピア「夏の夜の夢」や「月猫えほん音楽会」など、幅広い観客層を対象とした公演事業が行われた。
- ダンス・現代舞踊では、第6回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞した山海塾・パリ市立劇場・北九州芸術劇場の共同プロデュース作品「時のなかの時ーとき」を再演したほか、Noism「W-view」の公演等も行われ、福岡市をはじめとする九州各地や山口県など、北九州市域外から幅広い集客がある。
- 公演作品数は22本、公演数は49回、入場者数は32,378人と、中劇場を中心とした多様な公演が実施されたことで、公演数、入場者数ともに06年度を上回った。平均入場率は90%、入場率が95%を超えた公演も10本あり、06年度に引き続き高い入場率を確保している。
- 提携事業では、伝統芸能や小劇場・現代演劇など11事業、28公演が行われ、うち「TAKEOFF」は100%、「春風亭小朝独演会」は97%の高い入場率となっている。
- 創造事業、公演事業、提携事業、演劇祭を含めた公演事業全体の事業数は41本、公演数は109回、入場者数は51,195人であった。

④利用者数、利用件数

- さらに、観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-2のとおりで、07年度には自主事業、貸館事業合わせて1,841件の利用があり、利用者数は約28万人となっている。

- 07年度の自主事業での利用件数は前年度の1,010件から1,075件、利用者数は約7万人から約8万人に増加しており、利用者数、利用件数ともに過去最高となっている。貸館利用については、05年度以降、利用者数は約20万人、利用件数は約700～800件で推移しており、03年度からの延べ利用件数は約7,800件、延べ利用者数は約137万人におよぶ。

図表1-2 利用者数、利用件数(2003年度～2007年度)

	2003年度				2004年度				2005年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	23,937 (66)	22,890 (143)	7,402 (121)	54,229 (330)	22,445 (87)	29,970 (242)	16,996 (404)	69,411 (733)	13,034 (102)	33,153 (289)	14,592 (471)	60,779 (862)
貸館	93,100 (205)	41,524 (145)	10,769 (99)	145,393 (449)	175,273 (482)	71,901 (325)	13,626 (176)	260,800 (983)	160,673 (467)	55,644 (229)	10,478 (130)	226,795 (826)
合計	117,037 (271)	64,414 (288)	18,171 (220)	199,622 (779)	197,718 (569)	101,871 (567)	30,622 (580)	330,211 (1,716)	173,707 (569)	88,797 (518)	25,070 (601)	287,574 (1,688)

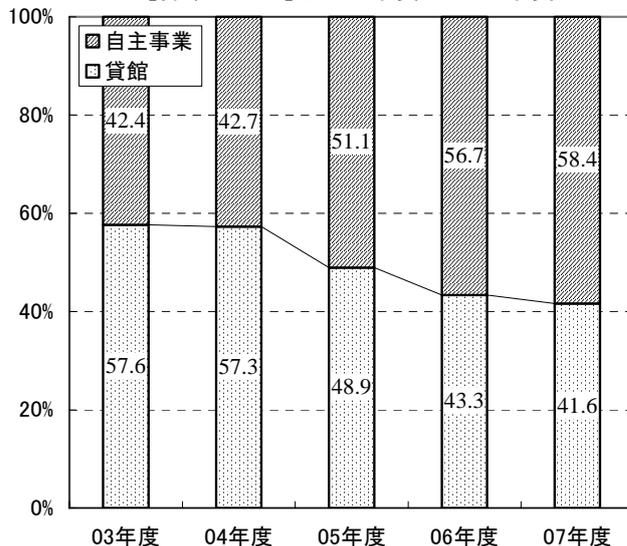
	2006年度				2007年度				累計
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	
自主事業	26,027 (139)	29,814 (298)	15,651 (573)	71,492 (1,010)	34,015 (186)	29,182 (325)	17,837 (564)	81,034 (1,075)	336,945 (4,010)
貸館	134,966 (382)	55,050 (244)	8,853 (146)	198,869 (772)	132,444 (381)	58,491 (237)	10,772 (148)	201,707 (766)	1,033,564 (3,796)
合計	160,993 (521)	84,864 (542)	24,504 (719)	270,361 (1,782)	166,459 (567)	87,673 (562)	28,609 (712)	282,741 (1,841)	1,370,509 (7,806)

*上段の数字が利用者数(単位:人)、下段()内の数字は利用件数

- 自主事業と貸館利用の比率を利用件数ベースで見ると、年々自主事業での利用率が高まっており、07年度は58.4%となっている(図表1-3)。
- また、ホールの規模別にみると、開館年度から大ホールは貸館での利用が多く、中劇場と小劇場では自主事業の利用が多い。特に、特に05年度以降、中劇場と小劇場では、自主事業での利用率が高くなっている(図表1-4)。
- これは、公演事業で中劇場を中心とした小劇場・現代演劇のラインナップが増えていること、リーディングセッションやNext Generation's Theater (NGT)をはじめとする創造事業・創造参加の場として小劇場を活用しているためであり、3つの劇場それぞれの役割と用途が明確になっているものと考えられる。

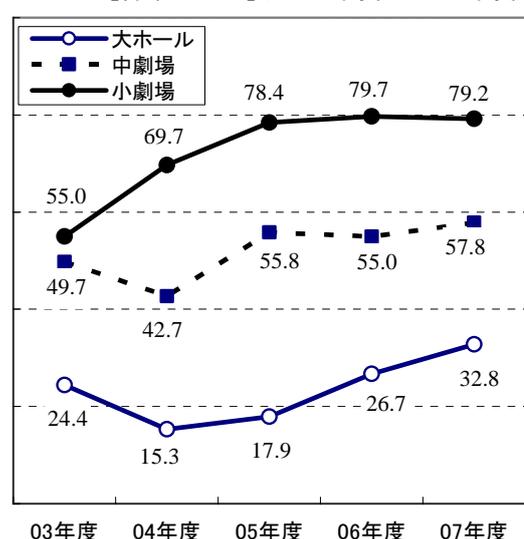
図表1-3 自主事業・貸館比率

[件数ベース](2003年度～2007年度)



図表1-4 ホール別の自主事業比率

[件数ベース](2003年度～2007年度)



図表1-5 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(2007年度)

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	合唱物語「わたしの青い鳥」2007	中劇場	7/9	1	449	298	66%
2	ダンスラボ2007「迷路のつくりかた」	小劇場	9/8・9	3	330	326	99%
3	「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」	中劇場	6/29～7/1	4	2,420	2,402	99%
4	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.8「さらば、ブラームス」	小劇場	9/15・16	2	240	206	86%
	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.9「フリータイム」	小劇場	12/21・22	2	240	222	93%
	北九州芸術劇場リーディングセッションVol.10「魔法の万年筆」	小劇場	1/12～13	2	300	286	95%
	リーディングセッション 計			6	780	714	92%
5	青春の門「北九州公演」	小劇場	3/19～23	7	931	870	93%
	青春の門「東京公演」	あうるすぽっと	3/28～30	3	678	614	91%
	青春の門 計			10	1,609	1,484	92%
計				24	5,588	5,224	93%

2 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	ラッパ屋「妻の家族」	小劇場	4/6・7	2	256	244	95%
2	山海塾「時のなかの時ーとき」再演	中劇場	4/28	1	533	514	96%
3	「恋の骨折り損」	大ホール	5/4・5	2	2,376	2,349	99%
4	シティボーイズ「モーゴの人々」	大ホール	5/19・20	2	2,386	2,049	86%
5	公共ホール演劇製作ネットワーク事業「いとこ同志」	中劇場	7/14～16	3	1,272	1,163	91%
6	金徳洙サムルノリ公演	中劇場	7/19	1	618	488	79%
7	立川志の輔独演会	中劇場	7/22	2	1,400	1,340	96%
8	月猫えほん音楽会2007	中劇場	8/2	1	568	508	89%
9	子供のためのシェイクスピア「夏の夜の夢」	中劇場	8/12	1	442	427	97%
10	「ピーターパン」	大ホール	8/25・26	2	2,390	1,997	84%
11	イッセー尾形とまらない生活2007in秋の小倉	中劇場	10/12～14	3	1,863	1,731	93%
12	青年団「ソウル市民」「ソウル市民1919」	小劇場	10/20・21	4	464	437	94%
13	「コースター」	中劇場	10/27・28	2	1,212	1,226	101%
14	Noism07「W-view」	中劇場	10/31	1	539	332	62%
15	「オセロー」	大ホール	11/3・4	3	3,594	3,400	95%
16	「欲望という名の電車」	中劇場	12/7	1	572	531	93%
17	鼓童12月公演「越境」	中劇場	12/9	1	656	625	95%
18	「テイクフライト」	大ホール	12/14～16	3	3,198	3,189	100%
19	ナイロン100℃「わが闇」	中劇場	1/26・27	3	1,674	1,628	97%
20	「ペテン師と詐欺師」	大ホール	2/20～24	6	6,534	5,291	81%
21	G2プロデュース「からっぽの湖」	中劇場	3/1・2	2	1,210	1,011	84%
22	「万作・萬斎狂言」	中劇場	3/5・6	3	2,022	1,898	94%
計				49	35,779	32,378	90%

3 北九州演劇祭

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	第5回北九州パントマイムフェスティバル	小劇場	10/6～8	4	632	523	83%
2	市民参加公演第15回記念公演「俺の城」	中劇場	11/17・18	2	1,200	918	77%
3	福北演劇ネットワーク公演「青木さん家の奥さん」	中劇場舞台上舞台	12/23	2	304	283	93%
計				8	2,136	1,724	81%

4 提携事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場数	入場率
1	松竹「怪談牡丹燈籠」	大ホール	6/16	2	2,486	1,852	74%
2	「ひょっこりひょうたん島」	中劇場	8/7・8	5	3,205	1,703	53%
3	「お〜い幾多郎」	中劇場	9/3	1	610	206	34%
4	松竹大歌舞伎「二代目中村錦之助襲名披露」	大ホール	9/6	2	2,486	1,330	53%
5	藤山直美主演「泣いたらあかん」	大ホール	9/18	2	2,470	2,247	91%
6	飛ぶ劇場創立20周年記念公演「あーさんと動物の話」	小劇場	10/12〜14	6	720	570	79%
7	KKP #5「TAKEOFF」	中劇場	10/20・21	2	1,304	1,308	100%
8	ラックスシステム「お見合い」	小劇場	11/24・25	2	270	229	85%
9	南河内万歳一座「大胸騒ぎ」	小劇場	12/8・9	3	318	232	73%
10	花の会	大ホール	12/17	1	1,264	835	66%
11	春風亭小朝独演会	中劇場	3/21・22	2	1,400	1,357	97%
計				28	16,533	11,869	72%

合計(創造・公演・提携事業・演劇祭)	109	60,036	51,195	85%
--------------------	-----	--------	--------	-----

5 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
(ワークショップ参加)							
1	表現教育推進事業(実践・鴨生田小学校-I)	小学校	5〜6月	4	小学4年生	76	
	表現教育推進事業(実践・鴨生田小学校-II)	小学校	9〜11月	17	小学5年生	79	
	表現教育推進事業(実践・鴨生田小学校-III)	小学校	9〜12月	12	小学6年生	68	
	〃 鴨生田小学校6年生発表	小学校	2/1	1	一般	450	観覧者
	表現教育推進事業(サマーセミナー)	小劇場	8/20・21	4	一般	24	内教職員17名
	実践講座(トライ!ドラマ)松ヶ江南小-I	小学校	1〜2月	4	小学4年生	59	
	実践講座(トライ!ドラマ)松ヶ江南小-II	小学校	9〜10月	4	小学5年生	79	
	実践講座(トライ!ドラマ)松ヶ江南小-III	小学校	2月	4	小学6年生	72	
	表現教育推進提携:提携〜湯川中学校校内発表	中学校	5〜7月	19	中学1〜3年生	387	
	表現教育推進事業:提携〜湯川中学校創立30周年記念作品創作指導	中学校	8〜11月	32	中学1〜3年生	56	
表現教育推進事業:提携〜湯川中学校創立30周年記念文化総合発表会	大ホール	11/30	1	一般	816	観覧者	
表現教育推進事業 計				102		2,166	
2	劇場塾(戯曲講座)	稽古場	6〜9月	7	一般	10	
	劇場塾(俳優講座①)	稽古場	7/7・8	2	一般	25	
	劇場塾(俳優講座②)	稽古場	8/18・19	2	一般	19	
	劇場塾 計				11		54
3	チャレンジ!えんげき2007	小劇場	7/23〜29	5	小学3年生〜6年生	30	
	〃 発表	小劇場	7/29	1	一般	106	観覧者
	チャレンジ!えんげき2007 計				6		136
4	バックステージツアー「劇場〇秘報告」	大ホール	7/14〜15	3	小学1年生〜一般	109	
	バックステージツアー「劇場〇秘報告…中劇場の謎を追え」	中劇場	12/1〜2	6	小学1年生〜一般	179	
	バックステージツアー 計				9		288
5	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」①	引野小学校	9/20	1	小学5年生	86	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」②	横代小学校	9/21	1	小学4年生	70	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」③	清水小学校	9/25	1	小学3年生	98	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」④	清水小学校	9/25	1	小学4年生	94	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑤	八幡小学校	9/26	1	小学3年生	40	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑥	熊西小学校	9/27	1	小学5年生	74	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑦	北小倉小学校	9/28	1	小学5年生	27	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑧	花尾小学校	1/15	1	小学4年生	96	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑨	高見小学校	1/16	1	小学4年生	58	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑩	大里南小学校	1/17	1	小学5年生	86	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑪	小森江小学校	1/18	1	小学5年生	34	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑫	戸畑中央小学校	1/21	1	小学4年生	101	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」⑬	徳力小学校	1/22	1	小学5年生	108	
学校出前演劇ワークショップ 計				13		972	

	事業名	会場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
6	高校生のための演劇塾	大ホール・中劇場・小劇場・稽古場	8/8～10	6	高校生	70	
7	「イッセー尾形のつくり方」ワークショップin小倉	中劇場	10/9～12	4	一般	50	
8	パントマイム学校アクティビティ	市内小中学校・福祉施設・病院他	9～10月	18	小中学生～一般	793	
9	舞台芸術特別WS:「山下 残 創作ワークショップ」	稽古場	4/6～8	3	一般	15	
10	南河内万歳一座ワークショップ	小劇場	12/4・5	2	一般	43	
ワークショップ参加 計				174		4,587	
(創造参加)							
	事業名	会場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
1	ネクストジェネレーションズシアター:のこされ劇場≡「蒲団-futon-」	小劇場、稽古場	4/27・28	3	一般	354	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター:劇団二番目の庭「崩壊」	小劇場、稽古場	5/11～13	3	一般	384	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター:さかな公団「月に吠える」	小劇場、稽古場	5/28～30	4	一般	378	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター 計			10		1,116	
2	合唱物語「わたしの青い鳥」2006	中劇場他	5～7月	15	小学4年生～一般	44	
3	ダンスラボ2007ダンスワークショップ	稽古場	8～9月	25	高校生～一般	10	
4	北九州ドラマ創作工房IV	鞆ヶ谷市民センター・小劇場	4～6月	11	小学4年生～一般	37	
	北九州ドラマ創作工房IV「まなつのともしび～サヤガタニの夏の夜の夢」	小劇場	6/24	2	小学4年生～一般	186	観覧者
	北九州ドラマ創作工房V	島郷市民センター・小劇場	1～3月	9	小学4年生～一般	38	
	北九州ドラマ創作工房 計			22		261	
5	第5回北九州パントマイムフェスティバル	小劇場	8～9月	17	小学4年生～一般	31	
6	「Noismノレエ」ワークショップ	稽古場	10/29	1	中学生以上	18	
7	シアターラボ2008	小劇場、稽古場	1～3月	13	高校生～一般	13	
	シアターラボリーディング公演	稽古場	12/10～15	6	高校生～一般	120	観覧者
	シアターラボ 計			19		133	
創造参加 計				109		1,613	
合計(学芸事業)				283		6,200	
総計				392		57,395	

(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の07年度の施設稼働率は、大ホールが75.9%、中劇場が70.9%、小劇場が85.7%と、06年度と比較し、3つのホールともに稼働率が高くなっている。開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、(財)地域創造の悉皆調査結果(平成19年9月1日時点でのデータで、専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は69.8%)と比較しても、高い水準にある。
- 特に、06年度以降、小劇場の稼働率が80%以上と高くなっている。図表1-2「利用者数、利用件数」でも自主事業による利用者数、利用件数が増えていることが関係していると考えられる。

図表1-6 北九州芸術劇場の稼働率(2003年度～2007年度)

	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度			2007年度		
	大ホール	中劇場	小劇場												
公演日数	99	100	83	219	207	220	223	189	222	202	199	254	220	205	257
利用対象日数	103	107	86	277	283	304	281	276	297	285	282	306	290	289	300
稼働率	96.1%	93.5%	96.5%	79.1%	73.1%	72.4%	79.4%	68.5%	74.7%	70.9%	70.6%	83.0%	75.9%	70.9%	85.7%

注) 稼働率は「稼働日数/利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去4ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

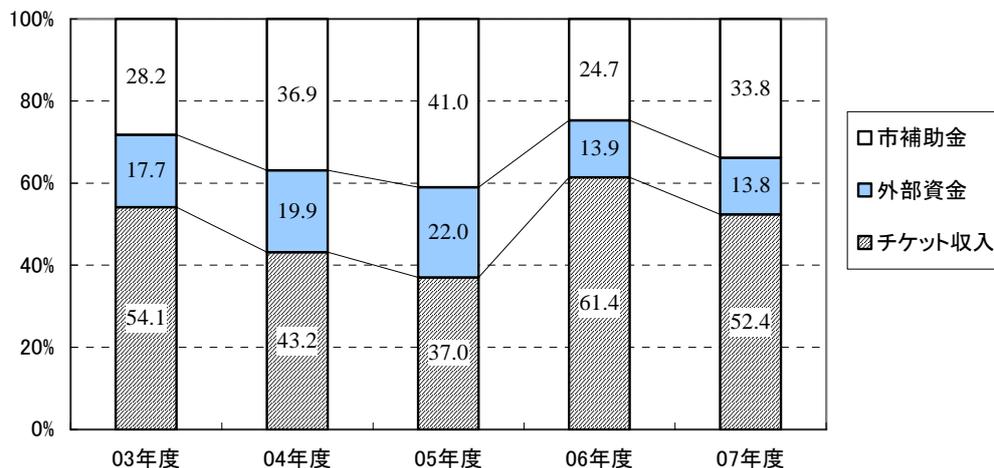
- 北九州芸術劇場の07年度の事業費は約3億7,700万円と、全国展開型のプロデュース作品が創られた06年度に比べて事業費からみた規模は小さくなっている。
 - 財源内訳をみると、チケット収入が約2億円で全体の52.4%、市の補助金が約1億3,000万円で33.8%、文化庁と(財)地域創造からの外部資金が約5,000万円で13.8%となっている。チケット収入の割合は、06年度の61.4%と比べると少なくなっているものの、06年度に引き続き5割以上を占めている(図表1-7、1-8)。
 - 参考値として、(財)地域創造の悉皆調査結果から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると*、「設置者からの補助金・委託費」が52.7%、「事業収入」が36.6%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が10.7%となっている。これら数字と北九州芸術劇場の数字を比較すると、07年度のチケット収入の割合、外部資金の獲得割合はともに試算値の平均を上回っている。特にチケット収入の割合は大幅に高く、その結果、市の補助金の割合は全国平均と比べて低くなっている。
- ※指定管理施設の平成18年度決算金額平均値の「収入」欄から、「事業補助金」、「事業委託費」(いずれも設置者からの収入)、「事業収入」、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」の4項目を事業費財源と設定し、それぞれの内訳比率を算出した。
- チケット収入や外部資金の割合の高さは、北九州芸術劇場の営業努力、運営努力の成果として評価できよう。

図表1-7 事業費の財源内訳(2003年度～2007年度)

(千円)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	215,389	54.1%	145,429	43.2%	110,060	37.0%	263,901	61.4%	197,355	52.4%
市補助金	112,225	28.2%	124,198	36.9%	121,965	41.0%	106,363	24.7%	127,456	33.8%
外部資金	70,700	17.7%	67,000	19.9%	65,295	22.0%	59,517	13.9%	52,051	13.8%
文化庁	49,000	(12.3%)	49,000	(14.6%)	45,795	(15.4%)	45,800	(10.7%)	36,600	(9.7%)
地域創造	10,000	(2.5%)	18,000	(5.3%)	19,500	(5.3%)	13,717	(3.2%)	15,451	(4.1%)
日本財団	11,700	(2.9%)	—	—	—	—	—	—	—	—
計	398,314	100.0%	336,627	100.0%	297,320	100.0%	429,781	100.0%	376,862	100.0%

図表1-8 事業費の比率(2003年度～2007年度)



(2) 事業収支

- 07年度の文化振興特別会計の収入の部の決算報告をみると、予算額と決算額の差異は、事業収入で約1,400万円、補助金等収入で約3,100万円となっている。補助金等収入のうち、特に市補助金で差異が大きいのは、開館以来培ってきた交渉力や効率性の向上が経費削減に結びついていること、交通費や宿泊費について積極的な経費削減の努力を行っていることなどが考えられる。
- 北九州芸術劇場では、経費削減のための取り組みとして、従前より、北九州滞在期間中の宿泊費について市内ホテルと契約を結び団体割引で宿泊できるようにしたり、06年3月の新北九州空港開港に伴い、06年度から(株)スターフライヤーとの契約を結び、東京の劇団・カンパニー等が東京-北九州を往復する際の航空券については団体券等の手配を行うなど、事業実施にあたっての経費削減のための努力を積み重ねている。
- また、06年度、07年度と、決算額の事業収入の割合は50%以上で、その割合は予算時より決算時の方が高くなっていることから、営業努力の成果も事業収支にあらわれているといえよう。

図表1-9 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(2003年度～2007年度)

(千円)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	194,300	215,389	△ 21,089	146,346	145,429	917	130,500	110,060	20,440
下段:全体に占める割合	48.6%	54.1%	—	41.1%	43.2%	—	37.3%	37.0%	—
補助金等収入	205,700	182,925	22,775	209,300	191,198	18,102	219,500	187,260	32,240
	51.4%	45.9%	—	58.9%	56.8%	—	62.7%	63.0%	—
市補助金	135,000	112,225	22,775	135,000	124,198	10,802	151,000	121,965	29,035
助成金	70,700	70,700	0	74,300	67,000	7,300	68,500	65,295	3,205

	2006年度			2007年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	265,709	263,901	1,808	212,173	197,355	14,818
	53.9%	61.4%	—	50.2%	52.4%	—
補助金等収入	227,531	165,880	61,651	210,800	179,507	31,293
	46.1%	38.6%	—	49.8%	47.6%	—
市補助金	145,000	106,363	38,637	149,000	127,456	21,544
助成金	82,531	59,517	23,014	61,800	52,051	9,749

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2007年度の観客の特性、観客からみた北九州芸術劇場の評価を整理・分析した。

1. 観客調査の実施要領

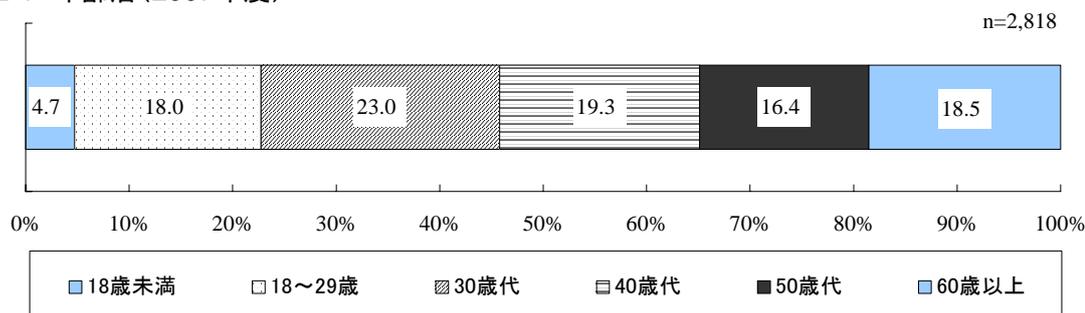
- 調査の対象：07年度に実施した主催・共催事業公演 42公演
- 配布・回収方法：各公演の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期：07年4月6日～08年3月21日
- 有効回答数：3,033件、回収率：14.1%（配布数：21,471件）

2. 観客調査の結果概要

(1) 観客(アンケート回答者)の属性(p.資-10～21)

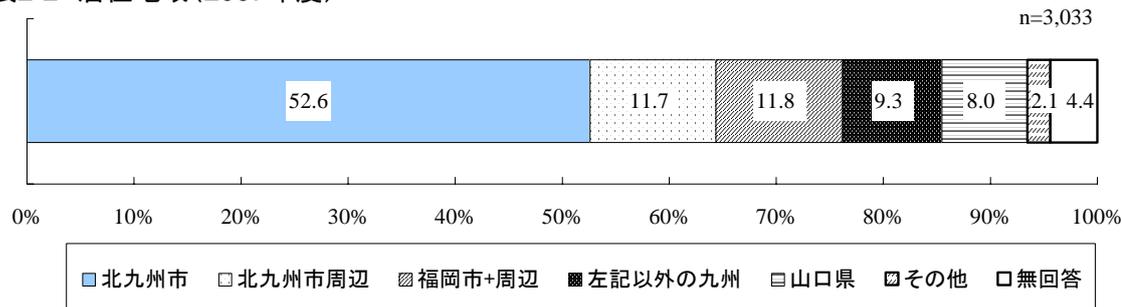
- 回答者の性別は、「女性」が82.1%、「男性」が17.9%と、「女性」の割合が高い。
- 回答者の平均年齢は42.7歳。最も割合が高いのは「30歳代」(23.0%)であるが、年齢の偏りはほとんどなく、幅広い年齢層からの来場がある。来場者の幅広さは、初年度(03年度)調査からの特徴である。

図表2-1 年齢層(2007年度)



- 回答者の居住地は、「北九州市」が52.6%、「北九州市周辺」が11.7%で、北九州市域から来場している割合が約64%を占める。ジャンル別では子どもの来場者が多い音楽劇やその他のジャンル、年齢別では18歳未満と50歳代以上、鑑賞経験別では鑑賞回数が多いほど、「北九州市」からの来場割合が高い。
- 07年度は、従来から北九州市域外からの来場割合が高かった「ダンス・現代舞踊」以外に、「小劇場・現代演劇」、「ミュージカル・商業演劇」でも北九州市域以外からの来場割合が高くなっている。

図表2-2 居住地(2007年度)



- チケットクラブには回答者の20.3%が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは17.3%である。

(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の実態

① 来場公演のジャンル(p.資-24~25)

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「ミュージカル・商業演劇」(44.0%)が最も割合が高く、次いで「小劇場・現代演劇」(26.9%)となっている。
- 来場公演のジャンルを年齢別にみると、60歳以上では「古典芸能」の割合が43.5%を占めており、他の年齢層に比べて割合の高さが顕著である。また、18歳未満では他の年齢層に比べて「音楽劇」(11.3%)の割合が高い。これは、「わたしの青い鳥」、「月猫えほん音楽会」といった子どもが鑑賞しやすい公演が音楽劇に分類されているためと考えられる。

② 公演情報の入手経路(p.資-26~27)

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」(22.8%)の割合が最も高く、「インターネット・ホームページ」(16.5%)、「新聞」(15.9%)、「ダイレクトメール」(13.1%)と続く。
- 開館年度から継続して情報入手経路として最も割合が高いのは「友人・知人から聞いた」であり、口コミが重要な情報源であることがうかがえる。また、「インターネット・ホームページ」は、初年度(03年度)調査以降、他の項目に比べて増加が顕著である(03年度:6.8%→04年度:9.5%→05年度:10.7%→06年度:12.0%→07年度:16.5%)。
- 年齢別にみると、29歳以下では「友人・知人から聞いた」、30歳代では「インターネット・ホームページ」、40歳代では「ダイレクトメール」、50歳代以上では「新聞」の割合が最も高い。また、18~29歳では、第2位が「インターネット・ホームページ」となっており、若い世代で「インターネット・ホームページ」が重要な情報入手経路となっている。

図表2-3 公演情報の入手経路(2007年度)

		1位	2位	3位
全体		友人・知人から(22.8%)	インターネット・HP(16.5%)	新聞(15.9%)
年齢	18歳未満	友人・知人から(41.4%)	その他(14.3%)	街中のチラシ・ポスター(12.8%)
	18~29歳	友人・知人から(29.7%)	インターネット・HP(28.0%)	他の公演会場で配布されたチラシ(14.2%)
	30歳代	インターネット・HP(24.7%)	友人・知人から(21.4%)	他の公演会場で配布されたチラシ(16.3%)
	40歳代	ダイレクトメール(17.4%)	友人・知人から(16.9%)	インターネット・HP(16.1%)
	50歳代	新聞(25.2%)	友人・知人から(19.1%)	ダイレクトメール(16.1%)
	60歳以上	新聞(32.8%)	友人・知人から(21.8%)	北九州市市政だより(13.8%)
チケットクラブ	はい	ダイレクトメール(41.6%)	他の公演会場で配布されたチラシ(26.2%)	インターネット・HP(14.6%)
	いいえ	友人・知人から(27.2%)	インターネット・HP(17.6%)	新聞(17.1%)
鑑賞経験	初めて	友人・知人から(29.6%)	インターネット・HP(23.9%)	新聞(16.9%)
	1~5回	友人・知人から(23.6%)	新聞(17.7%)	インターネット・HP(13.6%)
	6回以上	ダイレクトメール(33.8%)	他の公演会場で配布されたチラシ(26.7%)	その他(14.9%)
参考	06年度結果	友人・知人から(21.6%)	新聞(18.7%)	ダイレクトメール(16.6%)
	05年度結果	友人・知人から(24.2%)	ダイレクトメール(19.0%)	新聞(17.5%)
	04年度結果	友人・知人から(23.1%)	ダイレクトメール(19.5%)	新聞(15.6%)
	03年度結果	友人・知人から(21.9%)	北九州市市政だより(18.5%)	新聞(17.2%)

- チケットクラブ会員では、「ダイレクトメール」の割合が最も高く(41.6%)、次いで「他の公演で配布されたチラシ」(26.2%)となっており、ダイレクトメールやチラシなどの印刷媒体を情

報源としている割合が非会員と比べて顕著に高い。一方、非会員では、「友人・知人から聞いた」が27.2%と最も高い。

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、鑑賞経験が多いほど「ダイレクトメール」、「他の公演で配布されたチラシ」を、鑑賞経験が少ないほど「友人・知人から聞いた」、「インターネット・ホームページ」を情報源としている割合が高い。

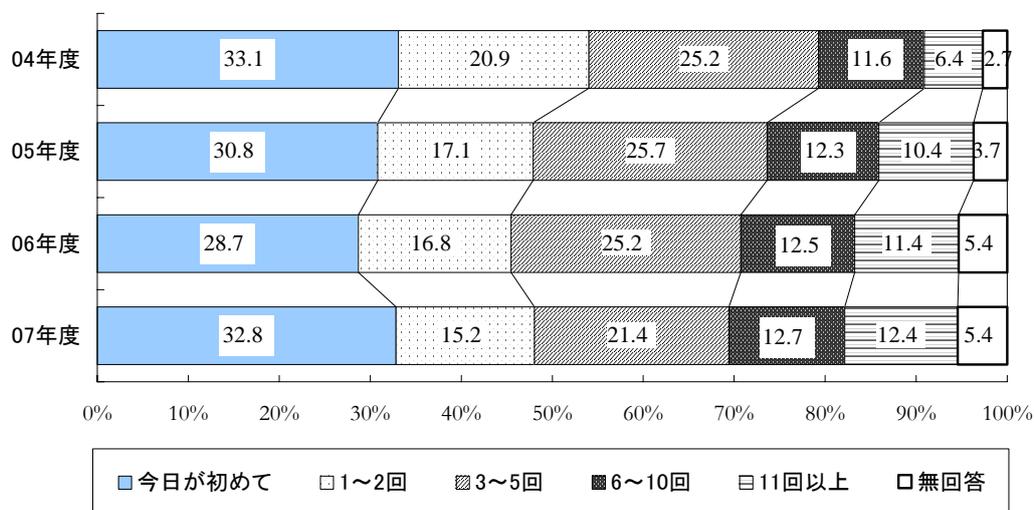
③公演に来た理由(p.資-28～29)

- 公演に来た理由は、「出演者等が好きだから」が55.7%、「公演内容が面白そうだったから」が46.0%である。18歳未満では、「人に誘われたから」(28.6%)が他の年代に比べて高い。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-48～49)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「今日が初めて」が32.8%と最も割合が高く、「年3～5回」(21.4%)、「年1～2回」(15.2%)と続いており、「今日が初めて」からリピーターまで、多様なラインナップで幅広い観客を集客していることがわかる。観客の来場経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、少しずつ来場頻度の高い観客(来場経験が6回以上)が増えている傾向もうかがえる。
- チケットクラブ非会員では、北九州芸術劇場での鑑賞が「今日が初めて」が42.1%を占める。一方、会員では、「11回以上」が40.0%と最も割合が高い。
- 6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、ジャンル別では「小劇場・現代演劇」、「パフォーマンス」、年齢別では「40歳代」、「50歳代」である。

図表2-4 北九州芸術劇場での鑑賞経験(2007年度)



⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-30～31)

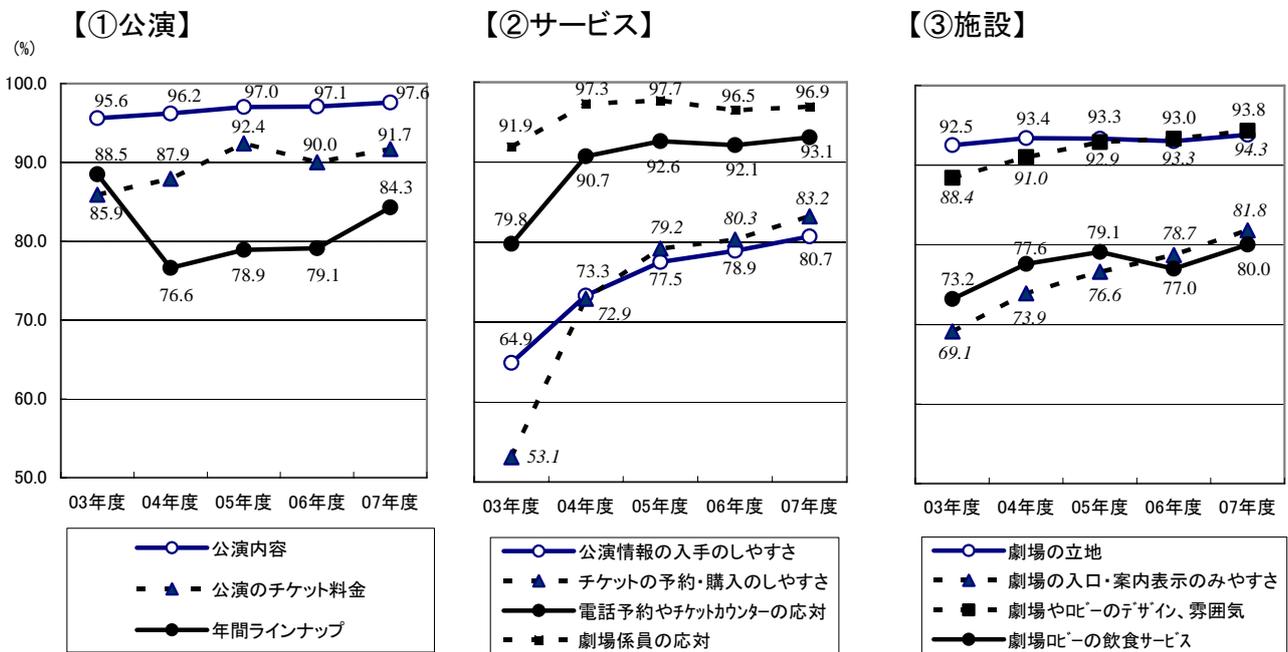
- 来場者の60.5%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が1,830円(飲食をしている回答者の割合:全体の50.8%)、ショッピングの場合が5,754円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の27.0%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-32～41)

- 満足度に関する11項目のうち、満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の立地」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目である。

- うち、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」、「劇場の立地」の3項目については、「たいへん満足」の割合も40%以上と高い。特に、「本日の公演内容」は「たいへん満足」が56.2%と、高い評価となっている。
- 年齢別にみると、60歳代以上では、ほぼすべての項目で「たいへん満足」の割合が他の年齢層に比べて低く、特に情報入手や劇場のハード面でその傾向は顕著である。なお、いずれの項目も年齢層が高くなるほど満足度は低くなる傾向がある。
- 満足層の割合は毎年高まっており、07年度はすべての項目で満足層の割合が80%以上となっている。開館の03年度以降、公演内容について高い満足度を維持していること、サービス面で大きく満足度が向上していることは大きく評価できよう。
- 満足度に関する11項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化でみると、次のとおりである(図表2-5)。

図表2-5 満足層の割合(2003年度～2007年度の経年変化)



①公演について

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合、「たいへん満足」の割合とも高く、07年度は満足層の割合が97.6%、「たいへん満足」の割合が56.2%を占めている。「公演内容」に関する観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。
- なお、「年間ラインナップ全体の内容」については、03年度は満足層の割合が88.5%であったが、04年度～06年度は76～79%で推移している。これは、03年度は、開館記念ラインナップを一覧にした表が調査票に掲載されていたが、04年度以降は紙面の都合等から掲載されておらず、回答者がラインナップ全体の内容を把握できないことが影響したためと考えられる。07年度は大きく満足度が回復しているが、これは、HPの充実など、ラインナップ全体を把握するための劇場からの情報提供が充実したことによる効果であろう。

②サービスについて

- サービスに関わる4項目は、いずれも04年度に満足度が大きく向上し、以降毎年満足度は高まっている。「劇場係員の対応」、「電話予約やチケットカウンターの対応」は、04年度に満足層の割合が90%を超え、そのまま継続して高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の9項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」、「公演情報の入手のしやすさ」、「劇場の入口・案内表示のみやすさ」は、満足度の伸びが大きい。07年度は、「公演情報の入手のしやすさ」も満足層の割合が80%を超えている。

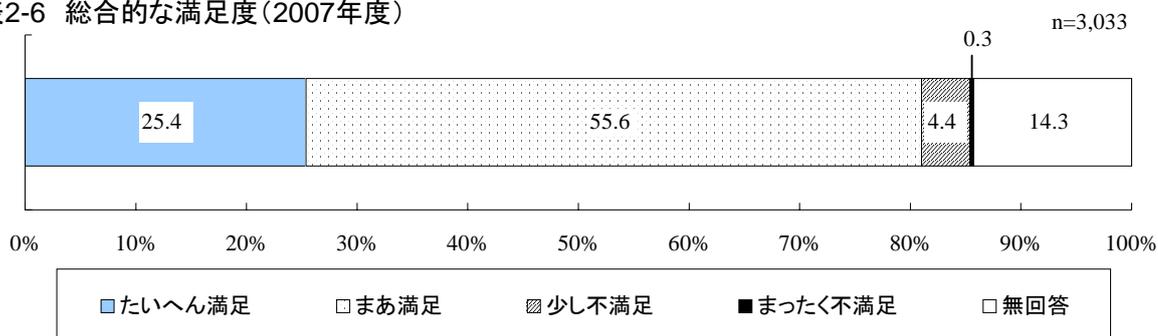
③施設について

- 施設に関わる4項目のうち、「劇場の立地」と「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の2項目は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。
- 一方、開館年度に満足層の割合が7割未満だった「劇場の入口・案内表示のみやすさ」は、年々満足度が高まり、07年度は81.8%まで向上した。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入り口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

④総合的な満足度

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が94.5%、「たいへん満足」の割合が25.4%である。06年度と比べて、若干ではあるが、満足層、「たいへん満足」の割合ともに高くなっている。年齢層が低いほど「たいへん満足」の割合が高い傾向がある。

図表2-6 総合的な満足度(2007年度)



(4) 劇場の運営方針について(p.資-42~44)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも90%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」無回答を除く)。
- 「創る」、「育つ」ともに、29歳未満の若い世代で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。

(5) 日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-46~47)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に1~2回」(24.5%)、「年に3~4回」(21.9%)、「年に5~9回」(16.4%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場の鑑賞頻度が高いほど日頃の鑑賞頻度も高いが、北九州芸術劇場での鑑賞は初めてでも、日頃月1回以上コンサートや演劇に出かける人(「月に1回程度」~「月に3回以上」の計)も約1割(10.9%)となっている。

②興味のあるジャンル(p.資-50～52)

- 全体では、「ミュージカル・宝塚歌劇」(52.4%)、「有名俳優の演劇」(52.2%)、「映画」(49.2%)、「小劇場・現代演劇」(41.2%)、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」(39.8%)など、日頃興味のあるジャンルは多様である。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で特徴がある。性別で見ると、男性は「映画」、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、女性は「ミュージカル・宝塚歌劇」、「有名俳優の演劇」への回答割合が高い。
- 年齢別で見ると、30歳代以下では「映画」の割合が最も高いが、18～29歳、30歳代では「小劇場・現代演劇」の割合も高い。一方、50歳代・60歳代以上では「有名俳優の演劇」の割合が最も高いものの、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、「能・狂言・文楽・歌舞伎等」への回答割合も他の年齢層に比べて顕著に高い。

第3章 学校との連携事業に関する学校の意識と評価

本章では、小学校を対象としたアンケート調査の結果から、学芸事業のうち、学校との連携事業に関する学校の意識と北九州芸術劇場に関する評価を整理・分析した。

1. 北九州芸術劇場における学芸事業について

北九州芸術劇場では、良質な舞台作品を招聘する「事業係」と舞台作品を創造・プロデュースする「制作係」のほかに、ワークショップや講座、学校との連携事業などの学芸事業を専門的に展開する組織として「学芸係」を設置している。

学芸事業の中でも、子どもと舞台芸術を結ぶ事業については、開館に先立つ2000年度からプレ事業として「表現教育推進事業」(演劇による表現教育のモデル事業)を小学校との連携でスタートし、以来、「バックステージツアー」、「チャレンジ！ えんげき」、「学校出前演劇ワークショップ」、「高校生のための演劇塾」、「北九州ドラマ創作工房」などの事業を学芸係で実施するとともに「パントマイム学校アクティビティ」や「子どもの劇場シリーズ(鑑賞事業)」など制作係や事業係との連携を図りながら、多様な事業を進めてきた。学校との連携事業については、06年度以降、「表現教育推進事業」では、これまでのプログラムよりも短期間で行う「トライ！ ドラマ」を設けるほか、「学校出前演劇ワークショップ」の実施校数を増やしている(各事業の概要は図表3-1、実施事業の詳細は第1章 p.7～8に整理)。

図表3-1 子どもと舞台芸術を結ぶ事業の概要

[表現教育推進事業]:「表現教育」とは、演劇の俳優養成で用いられるエクササイズなどを活用し、“想像力”をキーワードに、表現力や創造力を高め、生きる力を育む活動。その活動を基にした「表現教育推進事業」は小学4年生から6年生を対象としており、劇場オープン前からモデル校として鴨生田小、今町小、西小倉小で実施、各校の要望にあわせた事業を行ってきた。

[トライ！ ドラマ]:単なる演劇体験や作品づくりでなく、4回(1回＝2校時(90分)・1クラス毎)程度の時間をかけ、担任と講師が一緒になって、子どもたちの普段の生活状況やクラスのためなどの中からプログラムの内容を考えることで、より子どもたちの表現力の育成に焦点をあてたプログラム。

[バックステージツアー]:劇場の裏側を30名ほどで探検する企画。実際に照明、音響、舞台の機材に触って芝居づくりも体験できる。小学3年生以上が対象。

[チャレンジ！ えんげき]:夏休みの6日間に小学3年生から6年生の子どもたちを対象に実施する演劇ワークショップ。リーダーとなる俳優たちや劇場スタッフと一緒に、台本や舞台背景、衣裳・小道具までを自分たちで作成し、最終日には家族に向けた発表を行う。

[学校出前演劇ワークショップ]:小学校の体育館で行われる約100分の体験型ワークショップ。休憩をはさんだ2部構成になっており、第1部では“想像力”をテーマに音響効果を使ったイメージ遊び、第2部では5分程度の台本を使って本格的な芝居創りを体験し実際にその発表を行う。市内小学校3年～5年を対象に、学校単位で公募。

[高校生のための演劇塾]:北九州市および近隣地域の高校演劇のレベルアップを目的に、高等学校文化連盟・北九州支部と提携し、夏休みの3日間、地元の演出家や劇場スタッフを講師に、戯曲・演技演出・舞台・照明・音響の各講座を行なう。また、講座に先駆け、キャストは高校生、スタッフはすべてプロによるモデル作品を製作、上演する。

[北九州ドラマ創作工房]:地域の市民センターを拠点に、講師を含むメンバー全員で周辺地域から“物語の種”を発見して、即興の劇遊びやシーン創りのワークショップを重ねて創り出した作品を北九州芸術劇場の小劇場にて発表する。

[パントマイム学校アクティビティ]:「北九州パントマイムフェスティバル」の期間中、パントマイマーが市内の学校や医療施設などに出向いて、パントマイムのワークショップを実施。

2. 小学校を対象としたアンケート調査の実施要領

07年度は、北九州市内の小学校における、劇場の学芸事業の認知度や実施状況、舞台芸術や学芸事業の効果や影響、実施する上での課題、今後の要望等を把握するため、次の2本のアンケート調査を実施した。

- ①実施校調査:北九州芸術劇場が学校に出向いて行う「表現教育推進事業」と「学校出前演劇ワークショップ」の実施校の校長先生、教頭先生、担当の先生を対象とした調査
- ②全校調査:北九州市立小学校全校を対象とした調査

調査の実施要領は、次のとおりである。

- 調査対象者(校)数:①実施校調査 160名、②全校調査 131校
- 配布・回収方法:劇場から郵便にて各学校宛発送、回答者から返信用封筒にて回収
- 実施期間:2008年6月12日～27日
- 有効回答数(回収率):①実施校調査 64名(40.0%)、②全校調査 58校(44.3%)

3. 事業の実施状況と事業の効果・課題—「実施校調査」の結果から

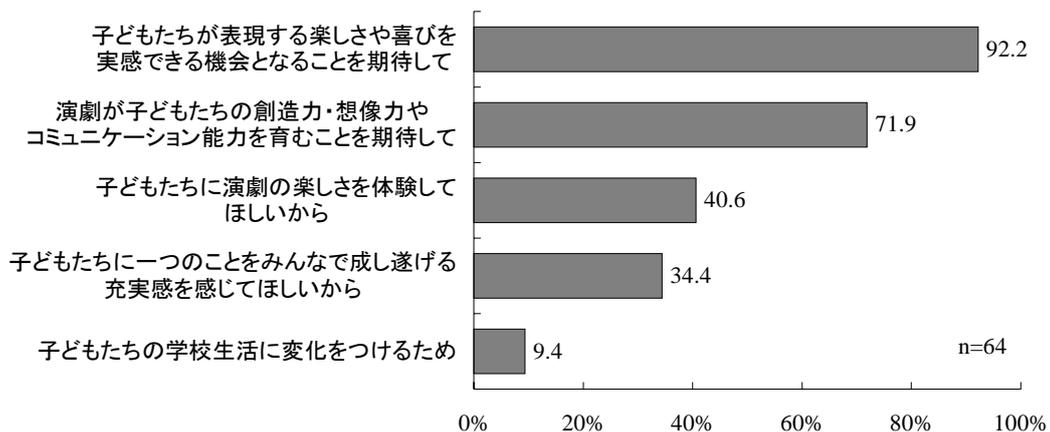
※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく対象を限定した意識調査であり、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 「表現教育推進事業」、「学校出前演劇ワークショップ」の実施状況

①事業を実施したきっかけ、目的(p.資-67～68)

- 事業を実施したきっかけは、「校長会の案内(チラシやパンフレットの送付等)で事業を知って」(32.8%・21名)、「総合的な学習の時間の教育目的にふさわしい事業だと思ったから」(31.3%・20名)、「実施した学校の先生から、効果や評判を聞いて」(28.1%・18名)への回答が多い。
- 実施の目的は、「子どもたちが表現する楽しさや喜びを実感できる機会となることを期待して」(92.2%・59名)、「演劇が子どもたちの創造力・想像力やコミュニケーション能力を育むことを期待して」(71.9%・46名)への回答が多く、表現力やコミュニケーション能力への期待が高いことがわかる。

図表3-2 事業を実施した目的(上位5項目)



②事業を実施した科目、異動先での実施経験(p.資-69～70)

- 事業を実施した科目は、「表現教育推進事業」、「学校出前演劇ワークショップ」ともに、「総合的な学習の時間」がほとんどである(「表現教育」:96.0%・24名、「学校出前演劇ワークショップ」:74.4%・32名)。「学校出前演劇ワークショップ」では「国語」も約3割(27.9%・12名)であるが、長期的・継続的な「表現教育推進事業」の場合は、「総合的な学習の時間」が大部分を占める結果となっている。
- 異動先の学校でも実施した経験を持つ先生は12.5%(8名)である。

③回答者自身(先生)の北九州芸術劇場への来場経験(p.資-71)

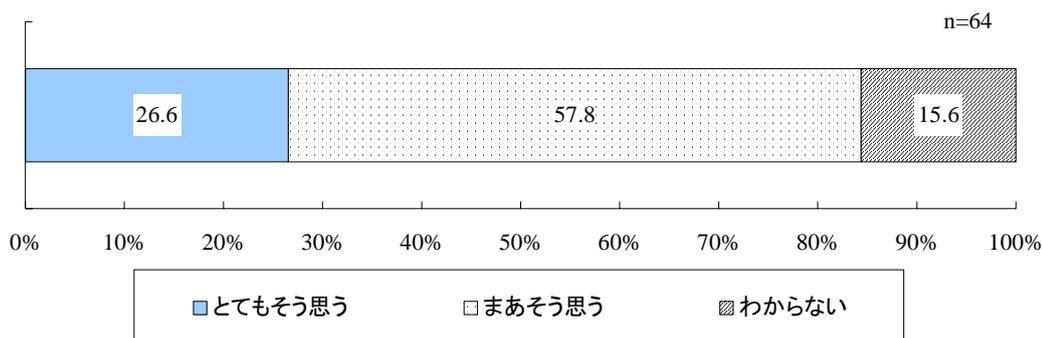
- 回答者自身、北九州芸術劇場への来場経験がある割合は約3割(29.7%・19名)であり、日頃から舞台芸術に親しんでいる先生が多くはないのが現状である。

(2) 事業の効果・影響や課題

①事業を実施したことによる子どもたちへの効果や影響(p.資-75～79)

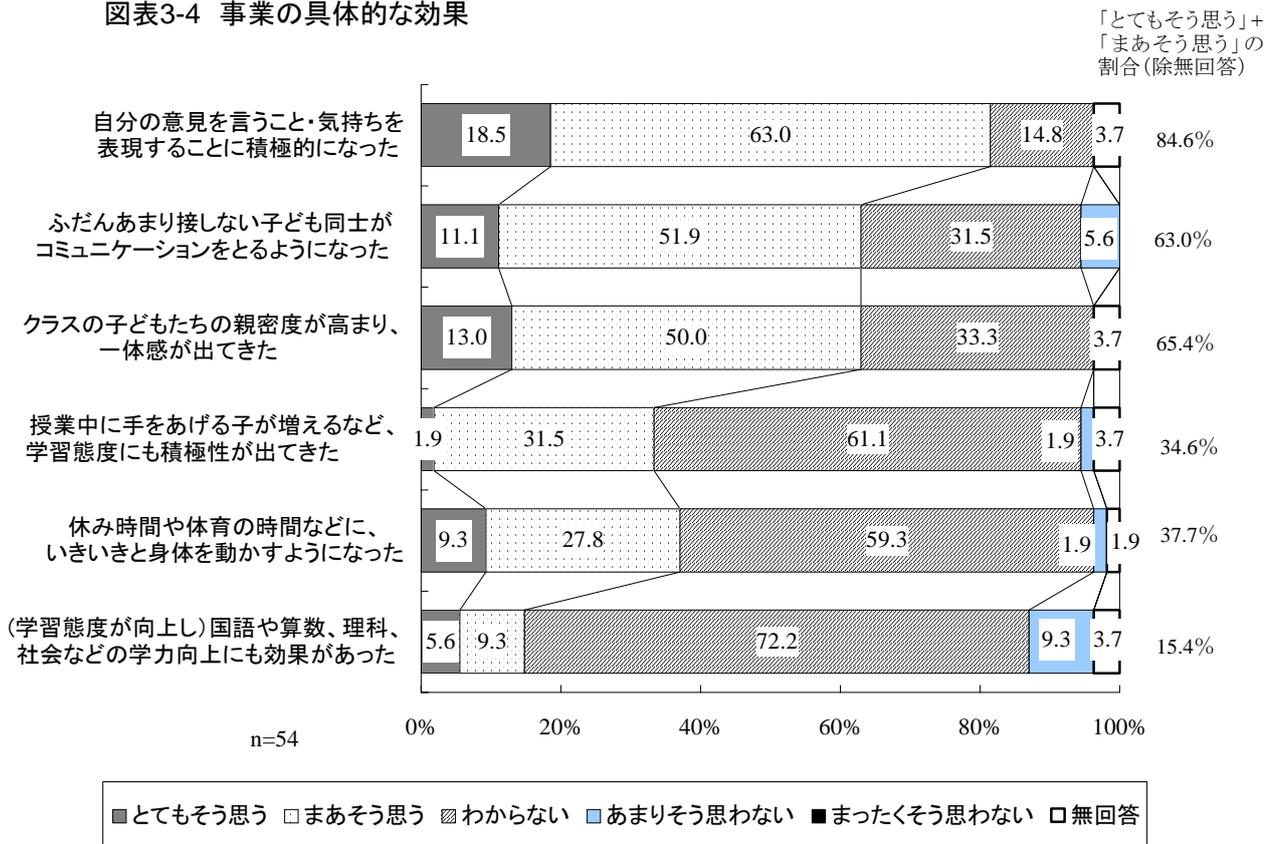
- 事業を実施したことで、子どもたちの教育や学習態度などにプラスの効果があったかどうかについては、「とてもそう思う」が26.6%(17名)、「まあそう思う」が57.8%(37名)となっており、事業経験者の約8割は何らかの効果があったと感じている。

図表3-3 事業の効果の有無



- 具体的な効果に関する6項目について、「とてもそう思う」あるいは「まあそう思う」への回答が最も多いのは「自分の意見を言うこと・気持ちを表現することに積極的になった」である。約8割が「とてもそう思う」、あるいは「まあそう思う」と回答しており(81.5%・44名、「無回答」を除くと84.6%)、表現力向上への効果を実感している先生が多い。また、「ふだんあまり接しない子ども同士がコミュニケーションをとるようになった」、「クラスの子どもたちの親密度が高まり、一体感が出てきた」についても、半数以上が効果があったと感じている。
- 一方、「授業中に手を上げる子が増えるなど学習態度にも積極性が出てきた」、「休み時間や体育の時間などに、いきいきと身体を動かすようになった」、「(学習態度が向上し)国語や算数、理科、社会などの学力向上にも効果があった」については、「わからない」への回答が多く、学習態度や生活態度の変化、学習への効果は、現段階では実感を得ることが難しいことがうかがえる。

図表3-4 事業の具体的な効果



- 演劇やダンスなどの舞台芸術を活用した事業が、子どもたちのどのような能力や心を育むことに効果があるかについては、「自分の考えや気持ちを表現する力」(79.6%・43名)、「豊かな感受性や想像力」(61.1%・33名)、「人とコミュニケーションする力」(51.9%・28名)への回答が多く、多様な効果があることが回答からうかがえる(グラフは、p.23に全校調査の結果とともに掲載)。
- 表現力やコミュニケーション力の育成への効果については、自由回答でも、「子どもたちがいきいきと活動する姿をみて、表現する体験の重要性を感じた」、「笑顔が多く見られ、表情が豊かになった」、「人はそれぞれ違うこと、自分を表現する楽しさを実感することができた」、といった具体的な意見が多数記載されている。また、演劇関係者やスタッフの取り組む姿勢や熱意が子どもたちにも前向きな影響を与えているという回答も複数記載されている。
- 一方で、「活動中はお互いの意思を感じ合おうと努力をするが、通常の学校生活に戻ると、感じ合う、認め合うという心がまだ足りないように感じた」、「毎年定期的に行うと、もっと効果がわかると思う」といった意見や、継続的な実施を求める意見もある。

②事業を実施したことによる自分自身(先生)への効果や影響(p.資-80)

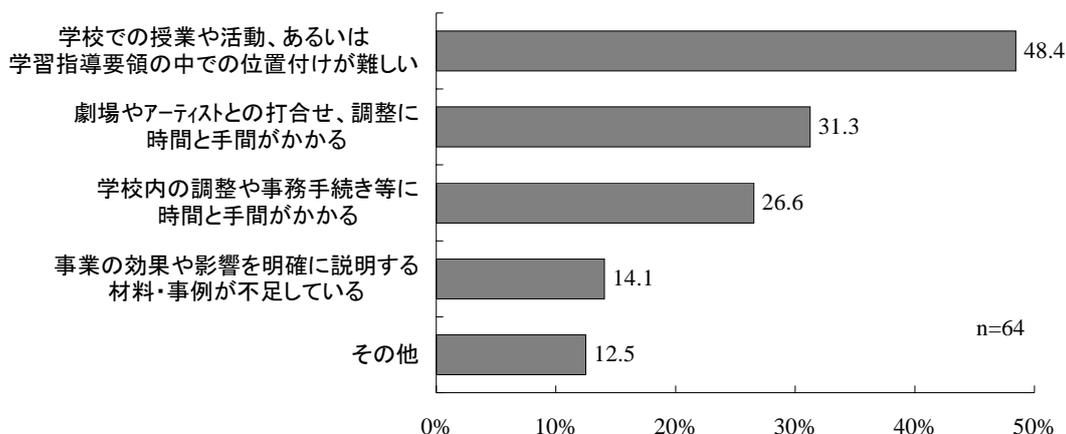
- 先生自身への効果や影響について最も回答が多いのは、「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(71.9%・46名)である。そのほか、「劇場や演劇関係者など普段会えない人に出会うことができ、人間関係に広がり生まれた」への回答も多く、子どもたちだけではなく、実施する先生自身への効果や影響も大きい。
- 特に継続的、長期的な取り組みを行った先生は、複数項目の効果に回答しており、先生自身にも多様な影響を及ぼしていることがうかがえる。
- 自由回答でも、「指導する側にとっても表現させるための方法を学ぶことができ勉強にな

った」、「このようなワークショップで役者さんと接することでいろいろなことを吸収し、子どもの力を引き出せたら」といった意見が記載されている。

③事業を実施する上での課題(p.資-81)

- 一方、事業を実施する上での課題も多く、「学校での授業や活動、あるいは学習指導要領の中での位置付けが難しい」については、半数近くが課題として認識している(48.4%・31名)。また、「劇場やアーティストとの打合せ、調整に時間と手間がかかる」(31.3%・20名)、「学校内の調整や事務手続き等に時間と手間がかかる」(26.6%・17名)への回答も多く、学校としての事業の位置付けや受け入れ体制が課題となっている。

図表3-5 事業を実施する上での課題(上位5項目)



- 特に、「表現教育推進事業」の経験者と「複数年度あるいは複数事業」の経験者では、課題として認識する項目が多い。事業が継続することで効果や影響も大きい一方、学校の中での事業の位置付けや調整への時間と手間など、抱える課題も増える現実がうかがえる。
- 時間の確保、総合的な学習の時間の減少への懸念、受け入れ体制、カリキュラムへの位置付けの難しさは自由回答でも記載されており、「調整に時間と手間がかかると、その分持ち帰りの仕事が多くなる」、「カリキュラム上うまく位置付けができない」、「総合的な学習の時間が削減されていく中、時間を確保するのが難しくなる」といった意見が記載されている。
- また、「取り組む側がそこに何を見出すかという姿勢を持つことが必要」、「教育活動のどの点に活かしていくのかを自分自身でしっかり持つのに時間がかかった」など、先生自身や学校の取り組み姿勢に関する意見もある。

4. 事業の認知度、舞台芸術と子どもたちとの関わりに関する意識

－「全校調査」の結果から

(1) 事業の認知度や実施状況

①事業の認知度(p.資-97～98)

- 北九州芸術劇場が子どもや学校を対象とした事業を実施していることを以前から知っていたのは84.5%(49校)である。具体的に知っている事業は、「学校出前演劇ワークショップ」(79.6%・39校)、「北九州パントマイムフェスティバル 学校アクティビティ」(46.9%・23校)、「表現教育推進事業」、「劇場バックステージツアー」(ともに38.8%・19校)への回答が多い。

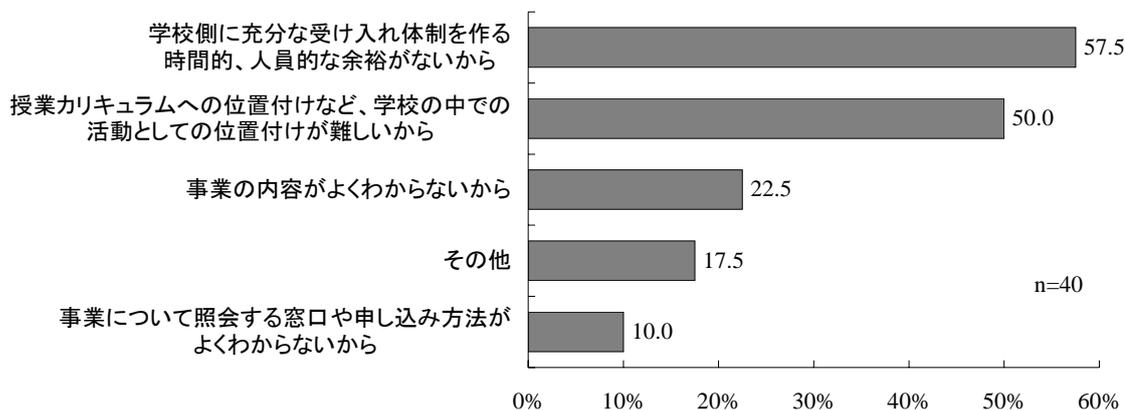
②劇場事業の情報の入手経路(p.資-99)

- 劇場事業の情報の入手経路は、「市政だよりで」(37.9%・22校)、「他の学校の先生や教育関係者から聞いて」(32.8%・19校)、「ステージ通信Qなど劇場の印刷物」(29.3%・17校)など、印刷物による情報、あるいは学校の先生や教育関係者からの口コミが中心となっている。

③事業の実施状況、実施したことがない場合その理由(p.資-100～101)

- 全校調査の回答校のうち、「表現教育推進事業」を実施した経験がある学校は5.2%(3校)、「学校出前演劇ワークショップ」と「パントマイムフェスティバル 学校アクティビティ」はいずれも15.5%(9校)である。
- いずれの事業も実施したことがない場合、その理由は、「学校側に十分な受け入れ体制を作る時間的、人力的な余裕がないから」(57.5%・23校)、「授業カリキュラムへの位置付けなど、学校の中での活動としての位置付けが難しいから」(50.0%・20校)への回答が多い。時間的・人力的な余裕がないこと、学校内での位置付けが難しいことは、実施校調査での事業を実施する上での課題と共通である。

図表3-6 事業を実施したことがない理由(上位5項目)



(2) 舞台芸術と子どもたちや学校との関わりに関する意識

①現状での学校と舞台芸術との関わり(p.資-105～107、資-110)

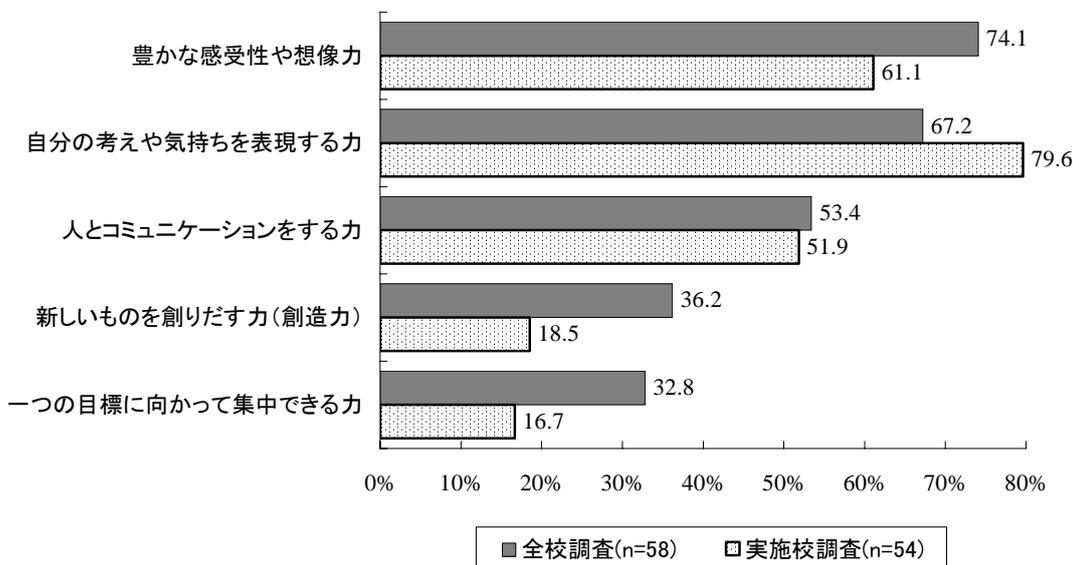
- 学校の授業や課外活動の中で、北九州芸術劇場以外の団体が主催する芸術の体験型・参加型事業を実施している学校は半数(50.0%・29校)である。具体的に取り入れている事業は、「劇団や鑑賞団体等が主催する演劇の鑑賞教室や学校での体験型・参加型事業」(65.5%・19校)が最も多い。
- 学芸会等で学校独自に演劇やダンスに取り組んでいるのは60.3%(35校)である。
- 学校生活の中に舞台芸術を取り入れる場合、活用できると考えられる教科・活動は、「総合

的な学習の時間」が77.6%(45校)で最も回答が多いほか、「国語」、「音楽」、「体育」も半数以上の回答がある。

②舞台芸術が子どもたちに与える影響や効果(p.資-108～109)

- 演劇やダンスなどの舞台芸術に触れることが、子どもたちの教育や人間形成にプラスになるかどうかについては、「とてもそう思う」が46.6%(27校)、「まあそう思う」が53.4%(31校)で、「とてもそう思う」+「まあそう思う」は100.0%となっており、舞台芸術に対する期待は高い。
- 舞台芸術が育むことを期待する子どもたちの能力や心としては、「豊かな感受性や想像力」(74.1%・43校)、「自分の考えや気持ちを表現する力」(67.2%・39校)、「人とコミュニケーションをする力」(53.4%・31校)に5割以上の回答があり、感受性や想像力、表現力、コミュニケーション力の育成への期待が大きい。
- 実施校調査で実感された効果と比べると、多くの項目で全校調査における期待の方が高くなっている。

図表3-7 舞台芸術が育むことを期待する子どもたちの力や心(上位5項目)



※ 設問文は、全校調査では、「舞台芸術が育むことを期待する子どもたちの能力や心」、実施校調査では、「舞台芸術を活用した事業が育むことに効果があると思う子どもたちの能力や心」と尋ねており、単純な比較はできないが、同一項目を設定したため、参考として両調査の結果をグラフ化した。

5. 北九州芸術劇場への意見や要望－「実施校調査」、「全校調査」の結果から

(1) 劇場との連携の意向や要望、劇場の学芸事業についての意識

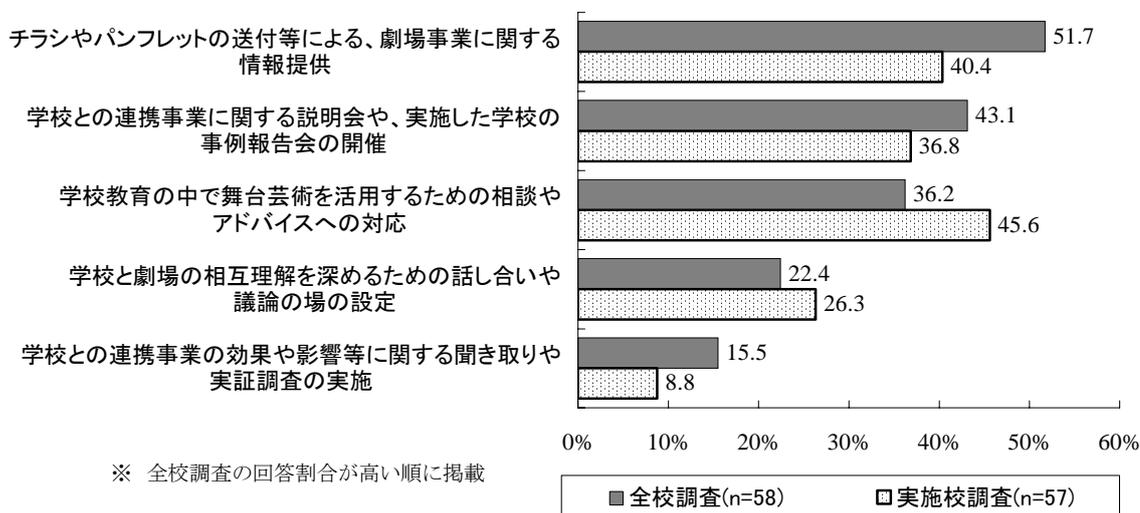
① 劇場に対する意識(実施校調査:p.資-87、全校調査:p.資-113)

- 北九州芸術劇場が学校にとって身近な施設かどうかについては、「全校調査」では、「まあそう思う」(39.7%・23名)への回答が最も多く、次いで「あまりそう思わない」(29.3%・17名)。「実施校調査」では、「まあそう思う」と「あまりそう思わない」が同率(36.8%・21校)となっており、大きな違いはない。

② 学校と劇場との連携(実施校調査:p.資-88～89、全校調査:p.資-114～115)

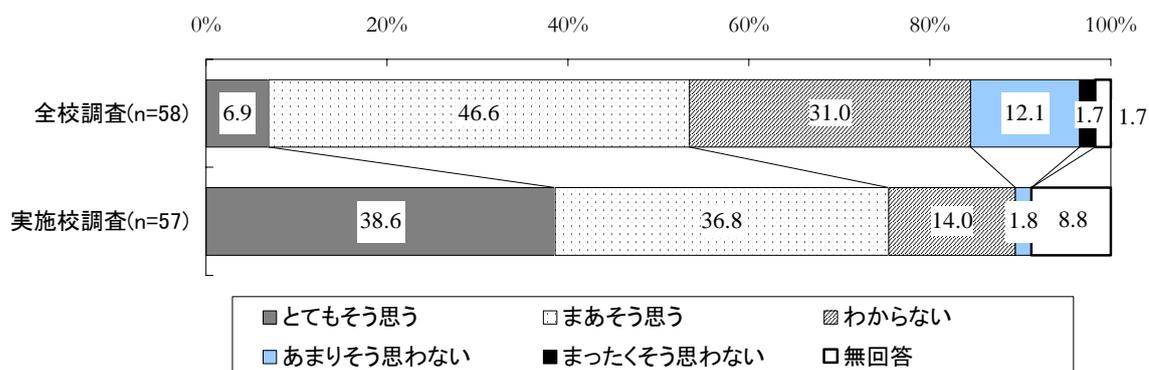
- 学校との連携を深めるためのしくみについては、「実施校調査」では、「学校教育の中で舞台芸術を活用するための相談やアドバイスへの対応」への回答が最も多い(45.6%・26名)。一方、「全校調査」では、「チラシやパンフレットの送付等による、劇場事業に関する情報提供」への回答が最も多い(51.7%・30校)。

図表3-8 学校との連携を深めるためのしくみ(上位5項目)



- 今後、劇場との連携事業を実施したいかどうかについては、「実施校調査」では、「とてもそう思う」への回答が38.6%(22名)、「まあそう思う」が36.8%(21名)となっており、北九州芸術劇場との連携の意向は高いといえる。一方、「全校調査」では、「まあそう思う」への回答が46.6%(27校)と最も多く、次いで「わからない」が31.0%(18校)となっている。事業を実施した経験があるかどうか、劇場との事業連携の意向に大きく関わってくる。

図表3-9 今後の事業連携の意向



③実施したい事業(実施校調査:p.資-90、全校調査:p.資-116)

- 実施したい事業は、「実施校調査」、「全校調査」ともに、「演劇の手法を使った、コミュニケーション能力の向上につながるようなワークショップ」、「気軽に演劇やダンスの楽しさを体験できるような入門型のワークショップ」への回答が多いが、ほぼすべての項目で実施校調査の回答率は、全校調査に比べて高くなっており、事業の実施経験があるほうが、実施したいと思う事業も多い。

(2) 劇場のコンセプト「育つ」への支持度(全校調査のみ設定:p.資-117)

- 劇場コンセプト「育つ」への支持度については、「まあやってほしい」への回答が最も多く(37.9%・22校)、「わからない」(32.8%・19校)、「ぜひやってほしい」(24.1%・14校)と続く。「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」は62.0%(無回答はゼロ)である。
- 観客調査の結果(2007年度)では、「ぜひやってほしい」が47.2%、「まあやってほしい」が37.4%で、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合が84.6%(無回答を除くと92.9%)であることと比較すると、低い結果となっている。

第4章 貸館利用者からみた評価

本章では、北九州芸術劇場で2005年度から実施している貸館利用者へのアンケート調査の結果から、貸館利用者の劇場のソフト、ハードへの満足度、利用の際に重視すること等をとりまとめ、利用者からみた評価を整理した。

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象：2005年度～2007年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法：利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 集計・分析対象：05年度～07年度3ケ年にわたって回収した101件
※年度ごとの回収件数が少ないため、3ケ年の結果を統合して集計、分析した。年度ごとの回収件数は、05年度：37件、06年度：20件、07年度：44件である。

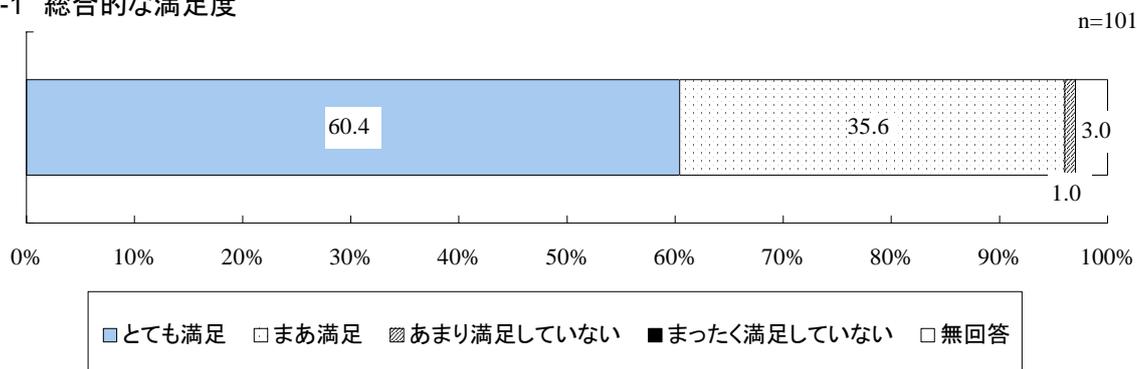
2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-139)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が60.4%(61件)、「まあ満足」が35.6%(36件)で、無回答を除いた満足層の割合は99%と大変高い。

図表4-1 総合的な満足度



※「まったく満足していない」は0件

(2) 施設に関する意見(p.資-140～142)

- 施設に関する7項目については、「搬入・搬出がやりやすかった」以外の6項目について、肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が95%以上と大変高い。
- 特に、「館内は清潔に保たれていた」と「設備・機器などを安全に使用できた」の2項目は、「はい」が90%以上と高い評価を得ている。
- 「搬入・搬出がやりやすかった」についても、肯定的な評価の割合は80%以上を占めるものの、他の項目に比べて「どちらかといえば『いいえ』」が多い。自由回答でも複合施設ゆへの駐車場からの動線のわかりずらさ、搬入・搬出の制限等に関する意見が記載されている。

図表4-2 劇場に関する意見【施設(ハード)】

(%)

	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ どちらかといえば「はい」 (除無回答)
1 館内は清潔に保たれていた	98.4	1.6	0.0	0.0	0.0	100.0
2 ホワイエや客席などの雰囲気よかった	84.2	11.9	2.0	0.0	2.0	98.0
3 広さ(客席等)はちょうどよかった	78.2	15.8	4.0	1.0	1.0	95.0
4 搬入・搬出がやりやすかった	57.4	23.8	12.9	3.0	3.0	83.7
5 舞台設備・機器は充実していた	85.1	12.9	0.0	0.0	2.0	100.0
6 舞台裏の施設等が使いやすかった	78.2	14.9	3.0	1.0	3.0	95.9
7 設備・機器などを安全に使用できた	93.2	6.8	0.0	0.0	0.0	100.0

- 回答を年度別にみると(07年度から設定された「設備・機器などを安全に使用できた」を除く)、05年度に「はい」の割合が80%以下であった「ホワイエや客席などの雰囲気がよかった」、「広さ(客席等)はちょうどよかった」、「搬入・搬出がやりやすかった」、「舞台裏の施設等が使いやすかった」の4項目で、06年度、07年度と「はい」の割合が高くなっており、年々利用者の評価は高くなっている。

(3) 運営や対応に関する意見(p.資-143~146)

- 運営、対応に関する9項目についても、「開館時間は適当である」以外の8項目について、肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が90%以上である。
- 「開館時間は適当である」については、他の項目に比べると「どちらかといえば『いいえ』」が多い。自由回答でもより長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見が記載されている。

図表4-3 劇場に関する意見【運営や対応(ソフト)】

(%)

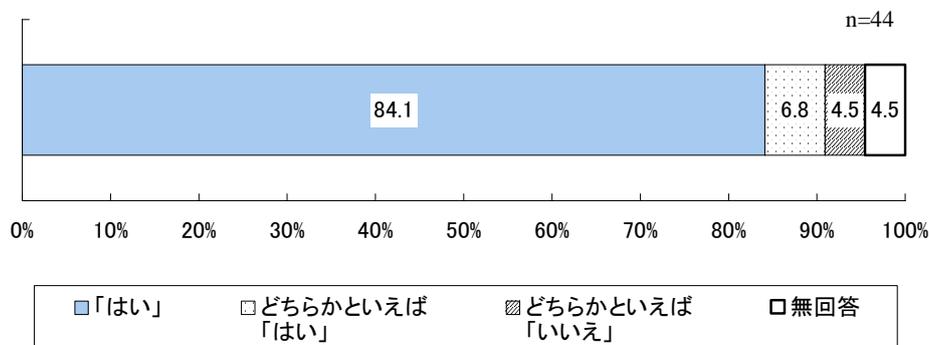
	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ どちらかといえば「はい」 (除無回答)
1 施設利用や予約情報は入手しやすかった	71.3	17.8	5.9	1.0	4.0	92.8
2 利用問合せや予約等は円滑だった	77.2	14.9	2.0	0.0	5.9	97.9
3 事務スタッフの対応はよかった	87.1	5.9	1.0	0.0	5.9	98.9
4 技術スタッフの対応はよかった	83.2	11.9	1.0	0.0	4.0	99.0
5 技術的な助言や援助は適切だった	84.4	15.6	0.0	0.0	0.0	100.0
6 苦情や要望への対応適切だった	85.9	10.9	1.6	0.0	1.6	98.4
7 施設の利用に関する説明は適切だった	84.4	12.5	1.6	0.0	1.6	98.4
8 事故防止等に関する説明が適切だった	81.3	14.1	3.1	0.0	1.6	96.8
9 開館時間は適当であると思う	54.5	18.2	18.2	9.1	0.0	72.7

- 回答を年度別にみると(07年度から設定された「現在の開館時間」を除く)、施設(ハード)と同様、05年度から設定されている「施設利用や予約に関する情報は入手しやすかった」、「利用や問い合わせや予約は円滑だった」、「事務スタッフの対応はよかった」、「技術スタッフの対応はよかった」の4項目は、06年度、07年度と「はい」の割合が高くなっており、07年度の「はい」の割合はいずれも80%以上、中でも、事務スタッフ、技術スタッフの対応はともに90%以上となっており、劇場スタッフの努力の成果として大きく評価できよう。

(3) 今後の利用の意向 (p.資-146)

- 07年度から設定された「次回利用する機会があれば、利用したいか」という項目については、「はい」が84.1%(37件)と高い割合を占めており、「いいえ」への回答は0件であった。利用者の今後の利用意向は大変高い。

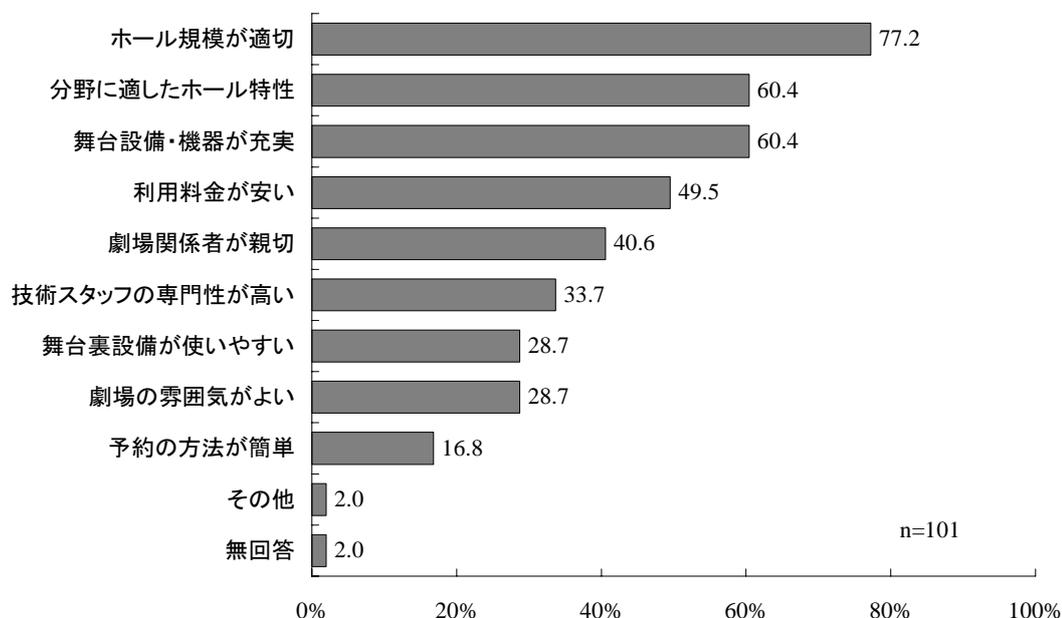
図表4-4 今後の利用の意向



(4) 利用の際、重視すること (p.資-147~149)

- 利用の際重視することとしては、「立地がよいこと」(83.2%・84件)、次いで「ホール規模が適切」(77.2%・78件)への回答が多い。そのほか、「分野に適したホール特性」、「舞台設備・機器が充実」も60%以上の回答となっており、ハードの要件を重視する傾向が高い。また、「劇場関係者が親切」(40.6%・41件)、「技術スタッフの専門性が高い」(33.7%・34件)への回答も多い。

図表4-5 利用の際、重視すること



※ 割合の高い順に掲載

- 利用の際に最も重視することは、「立地がよいこと」(33.7%・34件)への回答が多く、次いで「ホール規模が適切」(25.7%・26件)、「分野に適したホール特性」(24.8%・25件)となっている。

第5章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の運営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

07年度も例年とおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
 - ①劇場の運営管理に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館の事業主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表4-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくいいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。①劇場の運営管理、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ7億円、3億6,800万円、3億1,300万円、合計で13億8,200万円となっている。そのうち、68.3%にあたる9億4,400万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億6,500万円、②が5億8,700万円、③が4億6,700万円、合計で20億1,900万円である。そのうち、62.4%にあたる12億6,000万円が北九州市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.46、北九州市内で1.33である。
- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、7億5,700万円～8億6,700万円、生産誘発係数は1.33である。

- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約27億7,700万円～28億8,600万円で生産誘発係数は1.42、北九州市内に限ってみると、約20億1,800万円～21億2,700万円で生産誘発係数は1.33となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では156～165人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で133～142人で、対個人サービス、対事業所サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表5-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
運営管理・主催事業	①運営管理 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	7億円 (6億2,600万円)	9億6,500万円 (8億3,700万円)	1.38 (1.34)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	3億6,800万円 (1億1,400万円)	5億8,700万円 (1億5,200万円)	1.59 (1.33)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億1,300万円 (2億500万円)	4億6,700万円 (2億7,100万円)	1.49 (1.32)
	小計	13億8,200万円 (9億4,400万円)	20億1,900万円 (12億6,000万円)	1.46 (1.33)
貸館(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	1億6,600万円 ～2億4,800万円	2億2,000万円 ～3億3,000万円	1.33
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	4億200万円	5億3,700万円	1.34
	小計(参考値)	5億6,700万円 ～6億5,000万円	7億5,700万円 ～8億6,700万円	1.33
合計(参考値)		19億4,900万円 ～20億3,200万円 (15億1,200万円 ～15億9,400万円)	27億7,700万円 ～28億8,600万円 (20億1,800万円 ～21億2,700万円)	1.42 (1.33)
		雇用効果 (北九州市内)	156～165人(就業者ベース) 133～142人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。また、各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と合わない箇所がある。

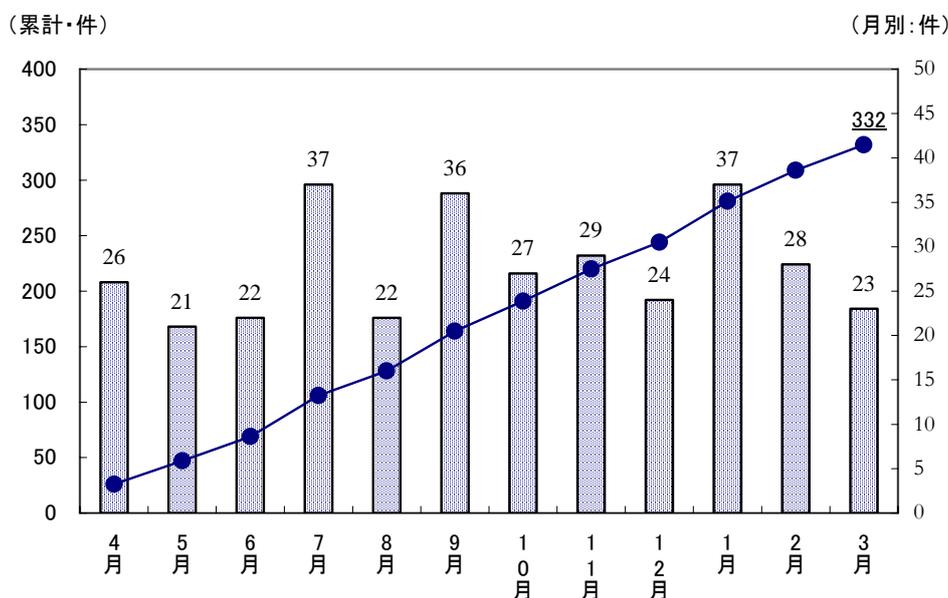
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2007年度も引き続きパブリシティ効果の算出を行なった。

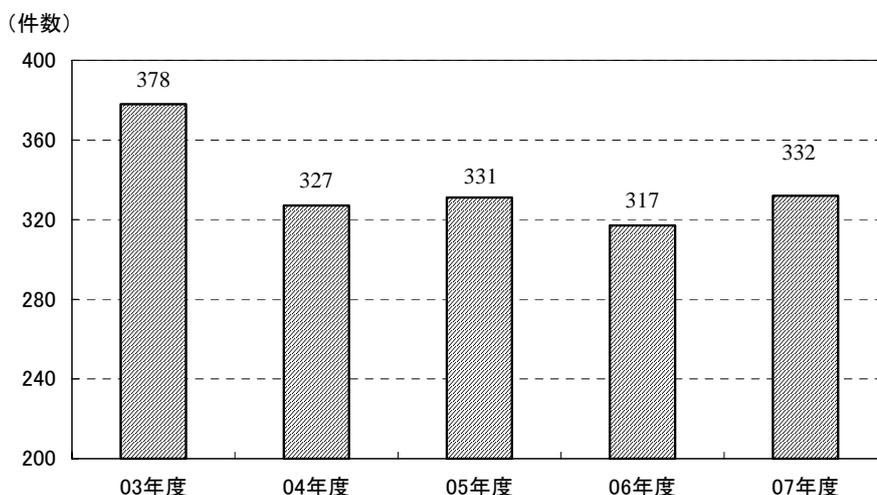
(1) 2007年度の掲載記事の件数と内容

- 07年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は332件で(図表5-2)である。
- 03年度は開館年度で話題性が高かったが、04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事が毎月コンスタントに掲載されている(図表5-3)。

図表5-2 2007年度の月ごとの掲載件数と累計



図表5-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(2003~2007年度)



資料) 「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、掲載が最も多いのは西日本新聞(120件)、次いで、朝日新聞(74件)、日経新聞(50件)、毎日新聞(32件)、読売新聞(28件)、その他地域の地方新聞等(28件)となっている(図表5-4)。

図表5-4 新聞別件数一覧(2003～2007年度)

掲載紙	掲載件数				
	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
西日本新聞	151	147	149	149	120
読売新聞	40	61	46	31	28
朝日新聞	78	52	48	60	74
日本経済新聞	34	32	37	37	50
毎日新聞	58	31	34	20	32
その他	17	4	17	20	28
計	378	327	331	317	332

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催イベントの紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①と②を抽出したところ、154件であった。
- その内容を、「自主事業／共催事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、85件、12件、31件、26件であった(図表5-4)。
- 「自主事業／共催事業」については、公演内容や情報紹介のほか、プロデュース作品である「青春の門」に関する記事が数多く掲載されている。北九州芸術劇場のプロデュースで「放浪編」初の舞台化が行われることが注目され、全国紙でも紹介されている。
- 「学芸事業」については、表現教育事業やワークショップ、リーディング事業、Next Generation's Theater(NGT)などの事業が幅広く取り上げられており、地元劇団への取材記事も掲載されている。
- これら154件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億1,000万円という結果となっており。07年度は、過去4年度に比べて金額換算の額が少なくなっている(図表5-5)。
- これは、03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高かったこと(03年度、04年度の「その他事業」に分類)、05年度は「ルル」や「IRON」、06年度は「錦鯉」や「地獄八景」などの全国展開型の創造事業で全国紙や全国の地方紙に公演情報が掲載されたこと、特に、07年度は「時のなかの時ーとき」の第6回朝日舞台芸術賞グランプリ獲得に関する掲載があったことが大きい(図表5-6)。

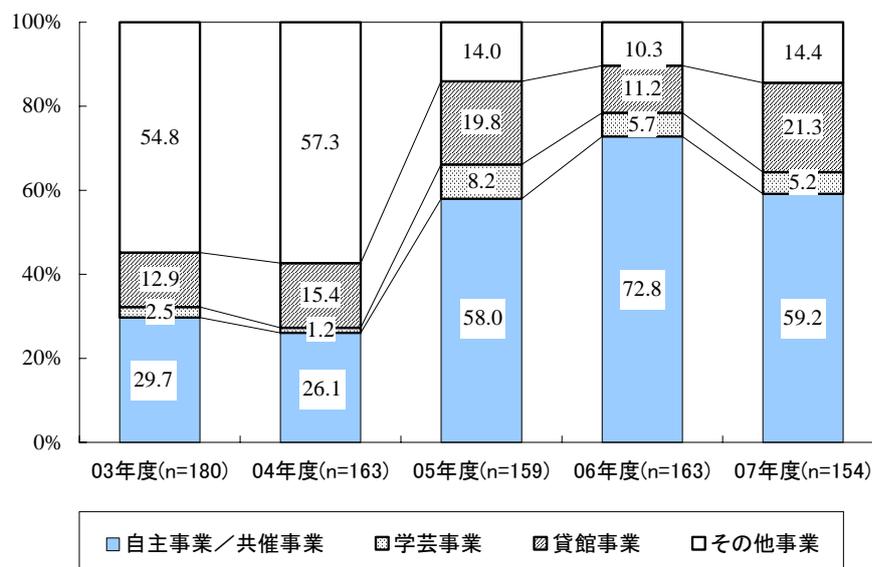
- しかしながら、05年度以降は、自主事業・共催事業に関する記事の掲載割合が増えており、07年度も劇場の自主事業・共催事業に関する情報が毎月コンスタントに掲載されていること、地元劇団の活動を紹介する記事が増えていること、ネットワーク事業などで全国の地方紙でも北九州芸術劇場の事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりが新聞記事からうかがえる。
- 事業に対する北九州市の補助金は約1億2,000万円であり、劇場事業は補助金とほぼ同額のパブリシティ効果を生み出しているといえることができる。

図表5-5 新聞掲載記事の内容と金額換算(2003～2007年度)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)								
自主事業/ 共催事業	70	62,140	54	46,211	75	110,044	88	160,243	85	66,027
下段:平均金額	887.7		855.8		1467.3		1820.9		776.8	
学芸事業	8	5,331	5	2,141	25	15,505	17	12,451	12	5,777
	666.4		428.2		620.2		732.4		481.4	
貸館事業	46	27,072	43	27,235	25	37,678	23	24,680	26	23,737
	588.5		633.4		1507.1		1073.0		913.0	
その他事業	56	114,683	61	101,577	34	26,622	35	22,741	31	16,056
	2047.9		1665.2		783.0		649.7		517.9	
計	180	209,226	163	177,164	159	189,849	163	220,115	154	111,597
	1162.4		1086.9		1194.0		1350.4		724.7	

注) 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

図表5-6 事業ごとの掲載割合(2003～2007年度)



第6章 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果

最後に、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームに基づいて、03年度から07年度までの5ケ年の北九州芸術劇場の事業評価結果を整理した。

1. 事業評価の基本フレーム

初年度(03年度)調査で設定した評価の基本フレームは次の4つである。

- 劇場の計画目標に関する評価:北九州芸術劇場の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」に基づき、これらの計画目標がどの程度達成されているか
- 劇場の運営状況に関する評価:観客や劇場利用者への各種サービス、安全管理や清掃・警備など、劇場の運営が適切に行われているかどうか
- 劇場の経営状況に関する評価:事業収支の面で十分な経営努力が行われているか、円滑な組織運営が行われているかどうか
- 劇場運営に伴う派生的効果に関する評価:経済的効果、パブリシティ効果など、劇場の運営に伴ってどのような効果がどの程度発生しているか

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表6-1に整理したとおりであるが、そのポイントを以下に記述した。

(1) 劇場の計画目標に関する評価

①3つのコンセプト「創る」「育つ」「観る」に関する評価

ー「創る」

- 「創る」では、5事業24公演が行われた。07年度は、全国展開型のプロデュース作品が創られた06年度に比べて公演回数、入場者数ともに少ないが、「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」、「青春の門」の2本のプロデュース作品はともに北九州市に縁の深い作品であり、北九州芸術劇場から地域性・メッセージ性の強い発信を行った。また、「わたしの青い鳥」、「リーディングセッション」、「ダンスラボ」など参加型・育成型の事業がコンスタントに実施された。
- 創造事業の入場者数は5,224人、入場率は平均で93%、特に「ダンスラボ2007ー迷路のつくりかた」、「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」の2事業は99%の高い入場率である。

ー「育つ」

- 「育つ」では、表現教育推進事業で中学校を対象とした創作指導、「高校生のための演劇塾」の開講など、小学校・小学生以外を対象とした事業を実施するとともに、「学校出前演劇ワークショップ」も13校で実施した。また、「Next Generation's Theater (NGT)」、「わたしの青い鳥」、「ダンスラボ」などの参加型の創造事業も実施され、創造参加を加えたアクティビティ数は283回、参加者数は6,200人である。
- 06年度の劇場使用者を対象としたグループインタビューの中でも、「Next Generation's Theater (NGT)」をはじめとする若手演劇人育成への取り組みは、参加者から大きな評価を得ている。
- 04年度に実施した、講座・ワークショップ参加者を対象にしたアンケート調査、グループイン

タビユーの結果では、事業に対する参加者の満足度は高い。また、「人間関係に広がり生まれた」、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」といった、鑑賞事業だけでは得られないような深い効果を指摘する声が多かった。これらは、表面には現れにくい、劇場運営にともなうアウトカムである。

- 07年度に実施した小学校との連携事業に関するアンケート調査結果では、「表現教育推進事業」、「学校出前演劇ワークショップ」を経験した先生の約8割は、事業を実施したことで子どもたちの教育や学習態度などにプラスの効果があったと感じていることが明らかになった。
- 特に、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)について効果を実感している先生が多い。また、子どもたちだけではなく、先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(71.9%)などの大きな効果や影響を感じている。
- 今後の連携の意向は、事業の実施経験のある実施校調査で明らかに高くなっている(実施校調査で連携の意向がある割合は83%)。学校側の受け入れ体制、授業カリキュラムへの位置付け、学校側(先生も含む)の意識など課題も多い中、子どもと舞台芸術を結ぶ取り組みを進めるためには、長期的な視点で、まず事業の効果を実感する機会を増やしていくことが必要である。

ー「観る」

- 「観る」では、「創る」「育つ」の育成型事業と連携し、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性の高いダンス・現代舞踊などの公演が増加した。また、大ホールでは4本の話題性の高い商業演劇・ミュージカルの公演が行われ、多様な年齢層、鑑賞経験を持つ来場者が訪れている。
- また07年度は、ダンス・現代舞踊をはじめ、小劇場・現代演劇や商業演劇・ミュージカルでも福岡市を初めとする九州各地、山口県からの来場者が増えており、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の評価が広がってきていると考えられる。
- 創造事業を含めた事業数は41事業、公演回数は109回、入場者数は51,195人となった。公演事業全体の入場率は平均85%となっている。
- 観客調査の結果では、開館年度(03年度)から継続して「公演内容」への満足度の高さが顕著で、従来から高い水準を保っている満足度は07年度もさらに上がり、満足層の割合:97.6%、「たいへん満足」の割合:56%と、観客から高い評価を得ている。あわせて、「公演のチケット料金」も9割以上が満足しており、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。

ー「創る」「育つ」「観る」の運営方針への支持

- 「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針については、開館の03年度から継続して観客の支持率は90%を超えている。05年度に実施した市民調査の結果でも、「創る」「育つ」「観る」いずれについても市民の支持率は80%を超えており、観客、市民いずれからも、運営方針への支持率は高い。「観る」、「育つ」については、市民から「ぜひやってほしい」との回答が50%を超えている。これら3つの運営方針は、今後も堅持することが望まれる。
- 07年度は、3つの運営方針に基づき、北九州市に縁のある話題性の高い創造事業、小劇場・現代演劇を中心としたラインナップによる公演事業、若手演劇人の育成や子どもや学校を対象とした積極的な学芸事業を展開し、「創る」「育つ」「観る」それぞれの事業が一体

となった事業構成となっている。

－「創る」「育つ」「観る」と連動した劇場利用

- 自主事業での利用は、利用者数、利用件数ともに増えており、利用件数は06年度の1,010件から1,075件、利用者数は06年度の約7万人から約8万人に増加している。
- 施設ごとの稼働率をみると、中劇場と小劇場は自主事業での利用が多くなっている。これは、特に05年度以降、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇のラインナップが増えていること、リーディングセッションやNext Generation's Theater (NGT)をはじめとする創造事業・創造参加の場として小劇場を活用しているためであり、3つの劇場それぞれの役割と用途が明確になっていると考えられる。

②計画目標の達成に関連した評価－市民や地域への波及効果

- 北九州芸術劇場の認知度や劇場への意見について、市民調査の結果をみると、北九州芸術劇場の認知度は84%と高い。また、北九州芸術劇場に関しては「これからの時代に必要な施設である」、「市の文化行政のシンボル」といった肯定的な意見が多いことは評価できる。一方、劇場事業や公演情報に関する情報発信については不満に思う市民が多く、いかに、広く一般市民を対象とした情報提供を行なっていくかは検討課題である。
- 北九州芸術劇場が開設された効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。
- 北九州芸術劇場への来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27～28万人で推移しており、この5年間で延べ130万人を超えている。07年7月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約98万7,000人であり、開館以来の5年間で、人口を超える来場者を迎えたことになる。
- 今後、北九州芸術劇場を地域になくしてはならない施設として位置付けていくためには、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の継続が必要であろう。

(2) 劇場の運営状況に関する評価

①観客サービスについて

- まず、観客サービスについて、開館年度(03年度)に満足度が70%未満であった「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降、改善傾向が続き、07年度は、両項目とも80%を超えた。満足度の改善は、開場から5年が経過し、観客が情報収集やチケット購入に慣れてきたことも要因であると考えられるが、劇場側のサービス向上への取り組みも大きいといえよう。
- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、07年度も約97%とほぼ100%近い観客が満足している。「電話予約やチケットカウンターへの応対」についても満足度は約93%で、劇場の顧客対応は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- なお、07年度は、満足度に関する11項目すべてで満足層の割合が80%を超えるとともに、11項目すべてでさらに満足層の割合が向上していることは、高く評価できよう。

②劇場利用者に向けたサービスについて

－劇団・カンパニーなどによる公演での使用

- 06年度に実施した公演事業での劇場使用者のグループインタビューでは、劇場の運営方針や事業への支援の声が高く、また期待も大きいことが明らかとなった。特に、劇団・カンパニー側の立場に立ち、作品づくりに積極的に関わる劇場スタッフの対応は、人間関係・信頼関係が作れる劇場であると評価が高い。これは、「創る」「育つ」「観る」という劇場コン

セプトが劇場スタッフに浸透し、実践されていることの現われといえよう。

- 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーからは、北九州劇場ができた効果として、「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「プロデュース事業等に関わることで役者や劇団のレベルアップになった」という意見があがっている。また、首都圏・関西の劇団・カンパニーからは、公立劇場、舞台芸術を牽引していく役割を期待する声が高い。

一 貸館での利用

- 貸館利用者を対象に、05年度から実施されている利用者調査結果では、劇場利用に関する総合的な満足度は99%で、利用者のほぼ全員が満足している。
- 具体的な項目をみても、劇場の施設や設備などのハード、運営やスタッフの対応などのソフト両面ともに高い満足度となっている。特に、ハード面では「館内が清潔に保たれていた」、「舞台設備・機器は充実していた」、「設備・機器などを安全に使用することができた」、ソフト面では「技術的な助言や援助や適切だった」については、回答者すべてが「はい」あるいは「どちらかといえば『はい』」と回答している。
- 05年度(利用者調査開始年度)から06年度、07年度と、情報入手や利用問い合わせ、スタッフの対応など多くの項目で満足度は向上しており、利用者の苦情や要望に対する劇場側の前向きな対応がうかがえる。

③ 専門的・技術的サービスについて

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査の結果から、専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術的な助言や援助は適切だった」は100%、「技術スタッフの対応はよかった」は99%の大変高い満足度となっている。
- 関連する項目として、「舞台設備機器は充実していた」、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台裏の施設等が使いやすかった」をみても、それぞれ、100%、100%、96%の高い満足度であり、劇場の専門的・技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けている。

(3) 劇場の経営状況に関する評価

- 北九州芸術劇場の07年度の事業費は約3億7,700万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の52.4%、市の補助金が33.8%、文化庁と(財)地域創造からの外部資金が13.8%であり、06年度以前と同様、市の補助金の割合は全国平均と比べて大幅に低くなっている。
- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 組織運営については、評価調査は未実施の状態、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

(4) 劇場運営に伴う派生的な効果

- 07年度は、劇場運営に伴う経済波及効果とともに、雇用効果を試算した。
- その結果、劇場の運営管理、主催事業の最終需要は約10.7億円(運営管理:7億円、主催事業:3.7億円)、主催事業の観客の消費支出は約3.1億円となっており、それらの経済波及効果は約20.2億円である。また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約5.7～6.5億円、経済波及効果が約7.6～8.7億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、運営管理・主催事業で1.46、貸館を含めると1.42となっている。

試算を始めた04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は1.45～1.47となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。

- 雇用効果については、就業者ベースで156～165人、雇用者ベースで133～142人という結果となっている。
- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する記事数は154件で、劇場事業に関する情報が毎月コンスタントに掲載されており、ネットワーク事業などで全国の地方紙でも北九州芸術劇場の事業が紹介されている。
- 新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、07年度は約1億1,000万円である。全国展開型の創造事業や、「時のなかの時—とき」の第6回朝日舞台芸術賞グランプリに関する掲載があった06年度に比べると減少しているものの、市の事業に対する補助金約1億2,000万円とほぼ同額であり、北九州芸術劇場の事業や運営は高いパブリシティ効果を生み出しているといえる。

3. 今後の課題

本調査では、北九州芸術劇場の事業評価調査として、03年度から以下のような調査を行ってきた。

- 劇場運営基礎データの収集・分析(03年度～)
- 公演に来場した観客を対象としたアンケート調査(観客調査)の実施(03年度～)
- 学芸事業参加者を対象としたアンケート調査、グループインタビュー(04年度)
- 専門家による座談会(開場から1年間の劇場運営の成果について)(04年度)
- 経済波及効果(04年度～)、パブリシティ効果の把握分析(03年度～)
- 市民調査(05年度 ※(財)地域創造の調査研究事業の一環として実施)
- (舞台芸術の公演による)劇場使用者へのグループインタビュー(06年度)
- 貸館利用者を対象としたアンケート調査(実施:05年度～、整理・分析:07年度)
- 学校を対象とした学校との連携事業に関するアンケート調査(07年度)

今後、幅広い視点から事業評価を行うためには、今後は次のような調査の実施も検討すべきであろう。

- 観客に対するグループインタビュー
- 安全管理や清掃・警備など、劇場運営の基礎的な環境整備の状況把握
- 組織の運営実態(内部スタッフへのインタビュー調査やディスカッションなど)

評価は評価自体が目的ではない。PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)に沿って、事業や運営の問題点や課題を把握し、それらの改善策を検討して、より望ましい運営を行うことが、評価の本来の目的である。また、評価の結果を市民に積極的に公開してアカウンタビリティを果たしていくことも、重要な要件となる。

北九州芸術劇場は、07年度で開館5年目を迎えた。08年度以降は、5年間の運営データ、アンケート調査やグループインタビュー調査の結果を改めて見直し、開館10年に向けた、より有効な評価手法・評価指標の検討を行なうことが必要である。

図表6-1 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果一覧

*アンケート調査結果については、◎、○、△、×の4段階評価とした。 ** 支持率、満足層の割合は、無回答を除いて算出した数値である。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
基本目標	基本目標の達成度に関する調査結果		
①3つのコンセプト-【創る】【育つ】【観る】-に関する評価			
<p>【創る】 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。</p>	<p>[2003年度] ● 3事業、35公演を実施。「ファウスト」は東京で、「大砲の家」は大阪で公演。</p> <p>[2004年度] ● 4事業、15公演を実施。「ルル」は東京、松本で公演(公演が2005年4月以降であったため、実績は05年度に計上)。</p> <p>[2005年度] ● 6事業、45公演を実施(うち北九州芸術劇場以外での公演数は26回)。「ダンスラボ」と「リーディングシアター」は新しくシリーズ化。「ルル」は東京、松本で、「IRON」は大阪、松本、福岡、熊本で公演。</p> <p>[2006年度] ● 7事業、61公演を実施。入場者数は27,107人と大きく増加。平均入場率は93%。「錦鯉」は大阪、東京、名古屋、松本で、「地獄八景・浮世百景」は東京、大阪で公演。</p> <p>[2007年度] ● 5事業、24公演を実施。入場者数は5,224人。平均入場率は93%。 ● 「東京タワー」、「青春の門」2本の北九州に縁のある作品が創られる。</p> <p>[5年間の推移] ※カッコ内の数字は、(03→04→05→06→07年度) 以下同様 ● 当該運営方針に対する観客の支持率(94.4%→93.5%→94.0%→93.9%→<u>93.8%</u>) ○ 市民の支持率(81.4%) ◎(※05年度調査)</p>	<p>→ ● 北九州に縁のある作品づくりで、北九州芸術劇場から地域性・メッセージ性の強い情報を発信。</p> <p>→ ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。</p>	
<p>【育つ】 アウトリーチなど、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育つ劇場を目指す。</p>	<p>[2003年度] ● 表現教育、戯曲講座、俳優養成講座、バックステージツアー、コンテンポラリーダンスワークショップ、学校出前演劇ワークショップなど、多様な事業を実施。</p> <p>[2004年度] ● 参加者の講座やワークショップに対する総合満足層:97.5%、うち「たいへん満足」:56.1% ◎ ● 「たいへん満足」の割合が高い項目:講座・ワークショップの内容(62.6%)、講師(72.4%)、劇場係員の対応(63.4%) ◎ ● アウトカム評価:「人間関係に広がり生まれた」(66.7%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(65.0%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(56.9%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50.4%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43.1%)など。</p> <p>[2005年度] ● 学校出前演劇ワークショップを4小学校で実施。また、新事業「Next Generation's Theater (NGT)」がスタート、シリーズ化。アクティビティの回数は297回、参加者数は6,327人。</p> <p>[2006年度] ● 「実践講座(トライ!ドラマ)」、「先生レクチャー」を加えて事業充実を図り、学校出前演劇ワークショップを12小学校で実施。アクティビティの回数は291回、参加者数は6,758人。</p> <p>[2007年度] ● 学校出前演劇ワークショップを13校で実施するとともに、中学校を対象とした創作指導、「高校生のための演劇塾」を実施。アクティビティの回数は283回、参加者数は6,200人。 ● 学校との連携事業への評価(小学校を対象としたアンケート調査):事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。特に、「表現力」、「コミュニケーション力」、「感受性や想像力」育成については、効果が大きい。先生自身にも前向きな影響を与えている。事業経験者は、今後、劇場との連携の意向も高い。</p> <p>[5年間の推移] ● 当該運営方針に対する観客の支持率(93.1%→93.4%→93.3%→93.2%→<u>92.9%</u>) ○ 市民の支持率(89.7%) ◎(※05年度調査)</p>	<p>→ ● 学校との連携が広がったことは、劇場事業と演劇に対する理解、そして子どもへの演劇の効果が培われている成果として評価。</p> <p>→ ● 学芸事業参加者の事業に対する満足度は極めて高く、グループインタビュー調査でも、参加者に大きなインパクトを与えていることが明確となった(04年度アンケート調査)。</p> <p>→ ● また、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力に効果があることが明らかであり、舞台芸術への期待も高い(07年度アンケート調査)。</p> <p>→ ● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。</p>	<p>● 観客調査の継続。</p> <p>● (学芸調査、市民調査について)長期的な視点(5年後、10年後)での継続的な調査の検討、実施。</p> <p>● 定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</p>

1. 劇場の計画目標に対する評価

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">1. 劇場の計画目標に対する評価</p> <p>[観る] 舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。</p>	<p>[2003年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「阿国」、「ピーターパン」、「イッセー尾形のとまらない生活」、「レッツゴー忍法帖」、「リチャード三世」、「ユーリタウン」など、幅広い公演を実施。 公演事業(創造事業も含む)の事業数:27事業、公演数:54回、公演入場者数:45,390人 <p>[2004年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伝説の女優 Legends!」、「子午線の祀り」、「ロミオとジュリエット」、RSC「オセロー」、子供のためのシェイクスピア「ハムレット」、イッセー尾形の一人芝居、山海塾「ひびき」など、幅広い公演を実施。 公演事業(創造事業も含む)の事業数:35事業、公演数:85回、公演入場者数:37,095人 <p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇、ダンス・舞踊公演を中心に、商業演劇や歌舞伎公演など幅広い公演を実施。「アジアパフォーミングアーツフェスティバル」として、韓国との合同公演も実施。 公演事業(創造事業も含む)の事業数:38事業、公演数:107回、公演入場者数:40,047人 市民からみた劇場開設の効果(05年度調査):「劇場・ホールで鑑賞する機会が増えた」(28.2%) <p>[2006年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中・小劇場での特徴ある現代・小劇場演劇や話題性の高いダンス・現代舞踊などの公演事業を実施。大ホールでの話題性の高い商業演劇・ミュージカルの公演が増加。 公演事業(創造事業も含む)の事業数:34事業、公演数:130回、公演入場者数:65,289人 <p>[2007年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中劇場を中心とした小劇場・現代演劇や話題性の高いダンス・現代舞踊、大ホールでの話題性の高い商業演劇・ミュージカルなど、多様な事業を実施。 多様なジャンルの公演で、北九州市域外からの観客が増加。 公演事業(創造事業も含む)の事業数:41事業、公演数:109回、公演入場者数:51,195人 <p>[5年間の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「公演内容」の満足層: 観客調査 (95.6%→96.2%→97.0%→97.1%→<u>97.6%</u>、「たいへん満足」の割合: 49.8%→53.0%→52.1%→54.2%→<u>56.2%</u>) ◎ 市民調査(93.8%) ◎(※05年度調査) 当該運営方針に対する観客の支持率(99.2%→99.2%→99.3%→98.7%→<u>99.2%</u>) ◎ 市民の支持率(89.7%) ◎(※05年度調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 中劇場での小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、鑑賞経験の観客を集客。 北九州市域外からの観客も増加、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されてきた。 「観る」に対する観客および市民の支持率は極めて高いことから、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 専門家へのインタビュー調査(04年度)でも概ね高評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査等の継続。 定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
<p>②計画目標の達成に関連した評価</p> <p>[劇場の認知度や劇場に対する意識等]</p> <p>北九州芸術劇場の存在や事業は市民からどのように認知されているか。 また劇場や劇場事業が市民にどのような影響を与えたか。</p>	<p>[2005年度](市民調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場の認知度や利用率: <ul style="list-style-type: none"> 認知度:(83.7%) ◎ (知っている場合の)来場・利用率:(43.7%) ○ 来場したことがない場合、今後の来場意向:(68.6%) ○ 来場したことがある場合の総合的な満足度(77.9%) ○ 北九州芸術劇場に関する意識: <ul style="list-style-type: none"> 「これからの時代には必要な施設」(46.0%) ◎ 「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」(44.3%) △ 「北九州市の文化行政のシンボルあるいは中心となる施設」(34.9%) ◎ 劇場ができた効果(アウトカム評価): <ul style="list-style-type: none"> 「生活の中で芸術文化に触れる機会が増えた」(21.6%) ○ 「普段出会えない人に会えるなど人間関係に広がり生まれた」(13.1%) ○ <p>[2007年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場の利用者は、03～07年度の5年間で延べ130万人。 ◎ 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場への来場者が増えることは、劇場の認知度を高め、さらに劇場事業への理解者、支援者を増やすことにつながることで評価。 市民調査の結果、北九州芸術劇場の認知度は高く、来場・利用率も44%。今後、さらに、来場意向のある人に劇場まで足を運んでもらうことが検討課題。 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、市民が感じる情報不足に対応するため、劇場や劇場事業に関する情報をいかに広く一般市民に届けるかは検討課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目、評価指標等の検討。 長期的な視点(5年後、10年後)での継続的な調査の検討、実施。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
2. 劇場の運営状況に関する評価	<p>[観客サービス] 劇場の観客に対して質の高いサービスが提供されているか。</p> <p>[5年間の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報・告知の方法と内容: 「公演情報の入手しやすさ」の満足層(64.9%→73.3%→77.5%→78.9%→<u>80.7%</u>)○(改善) チケット販売のしやすさ: 「チケットの予約・購入のしやすさ」の満足層(53.1%→72.9%→79.2%→80.3%→<u>83.2%</u>)○(改善) 客席案内等のフロントサービスの内容と質: 「劇場係員の対応」の満足層(91.9%→97.3%→97.7%→96.5%→<u>96.9%</u>)◎ 劇場スタッフの対応(電話やチケットカウンター): 「電話予約やチケットカウンターの対応」の満足層(79.8%→90.7%→92.6%→92.1%→<u>93.1%</u>)◎ 劇場ロビーにおける飲食サービスの内容と質: 「劇場ロビーの飲食サービス」満足層(73.2%→77.6%→79.1%→77.0%→<u>80.0%</u>)○(改善) 満足度は毎年向上しており、07年度も高い満足度がさらに上昇。 	<ul style="list-style-type: none"> 03年度の要改善項目(満足率70%未満)、改善の望まれる項目(満足率80%未満)は、5年間ですべて80%以上の満足度に向上。 03年度から満足度の高かった「フロントサービスの内容と質」は、ほぼ100%近い満足度を維持。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 安全管理、清掃、警備等の実施状況に関するデータ分析、ヒアリング調査等の実施。
	<p>[劇場利用者サービス] 劇団や市民団体など利用者に適切なサービスが提供されているか。</p> <p>[2006年度]劇場使用者を対象とするグループインタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇場施設、舞台設備等は、高い評価。また、劇場の取組み姿勢、スタッフの対応、集客やチケット販売への対応についても、高い信頼感を得ている。 劇場ができた効果として、「福岡と北九州の連携ができるようになった」、「劇団相互の連携ができるようになった」、「役者、劇団が成長した」、「北九州で定期的に公演を行うようになった」など <p>[2007年度(05～07年度計)]貸館利用者を対象とするアンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 使いごちに対する総合的な満足度(満足層の割合):99.0% 施設(ハード)に関する評価:「搬入・搬出がやりやすかった」(83.7%)以外の6項目で95%以上 運営や対応(ソフト)に関する評価:「開館時間は適当である」(72.7%)以外の9項目で90%以上 05年、06年、07年の経年変化をみると、多くの項目で満足度が毎年向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館利用者を対象としたアンケート調査結果(07年度)で、劇場の使いごちについては、ハード、ソフトともに高い評価(ほぼ90%以上の満足度)。 05年から、多くの項目で満足度は向上。 公演での使用者を対象としたグループインタビュー結果(06年度)でも、ハード、ソフトともに高い評価。若手劇団・カンパニーへの波及効果も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者調査の継続。 幅広く利用者の満足度等を把握するための効果的な調査の実施手法の検討。
	<p>[専門的・技術的サービス] 劇場の専門的・技術的サービスの水準や提供状況は適切か。</p> <p>[2007年度(05～07年度計)]貸館利用者を対象とするアンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術的サービスの水準(満足層の割合) 劇場技術スタッフの対応:「技術的な助言や援助は適切だった」(100.0%)、「技術スタッフの対応はよかった」(99.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館利用者を対象としたアンケート調査結果(07年度)で、技術スタッフの対応、技術的な助言や援助については、ほぼ100%の高い評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者調査の継続とともに、補足調査の実施。 設備、機器類のメンテナンスの実施状況に関するヒアリング調査等の実施。
	<p>[その他] その他、劇場の事業や運営は適切に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業評価への取り組み:事業評価調査を実施 アカウントビリティへの取り組み:未調査 		
3. 経営状況に関する評価	<p>[事業収支] 事業収支の面で十分な経営努力が行われているか。</p> <p>[03年度から5年間の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 公演事業(創造・公演・提携・演劇祭)の平均入場率(88.2%→88.7%→82.4%→92.7%→<u>85.0%</u>) 109本中うち95%を上回った公演は15本。 事業(チケット)収入(2億1,539万円/54.1%→1億4,543万円/43.2%→1億1,006千円/37.0%→2億6,390万円/61.4%→<u>1億9,736万円/52.4%</u>) ※金額/事業費に占める割合 外部資金の獲得(7,000万円/17.7%→6,700万円/19.9%→6,500万円/22.0%→6,000万円/13.9%→<u>5,200万円/13.8%</u>) <p>[06年度～]</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊費:市内ホテルと契約で団体割引、航空券:スターフライヤーとの契約で団体券手配 など 	<ul style="list-style-type: none"> 07年度も事業収入は50%以上、外部資金の獲得も14%と、全国平均と比べて高く、市補助金の割合は低い。 営業努力、経費削減の努力を大きく評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続したデータ収集・分析の実施。 詳細調査の必要性の検討、実施。
	<p>[組織運営] 適切なスタッフ体制や効率的な組織運営が行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織体制の適切さ:未調査 業務内容・ボリュームの適切さ:未調査 意志決定の円滑さ:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 評価項目、評価指標等の検討。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題																																																				
<p>[その他] その他、経営面で適切な対応が行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な運営に向けた取り組み:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 評価項目、評価指標等の検討。 																																																				
<p>[経済的効果] 劇場運営によってどのような経済的な効果が生み出されたか。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>03年度</th> <th>04年度</th> <th>05年度</th> <th>06年度</th> <th>07年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出</td> <td>最終需要</td> <td>約12億円</td> <td>約12.7億円</td> <td>約12.1億円</td> <td>約14.6億円</td> <td>約13.8億円</td> </tr> <tr> <td>経済波及効果</td> <td>約23億円</td> <td>約18.4億円</td> <td>約17.6億円</td> <td>約21.4億円</td> <td>約20.2億円</td> </tr> <tr> <td>誘発係数</td> <td>—</td> <td>1.45</td> <td>1.45</td> <td>1.47</td> <td>1.46</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貸館事業、貸館観客の消費支出</td> <td>最終需要(参考値)</td> <td>—</td> <td>約7.5～8.9億円</td> <td>約5.9～6.7億円</td> <td>約4.6～5.3億円</td> <td>約5.7～6.5億円</td> </tr> <tr> <td>経済波及効果(参考値)</td> <td>—</td> <td>約9.8～11.9億円</td> <td>約7.9～8.9億円</td> <td>約6.2～7.0億円</td> <td>約7.6～8.7億円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">雇用効果</td> <td>就業者ベース</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>145～151人</td> <td>140～145人</td> <td>156～165人</td> </tr> <tr> <td>雇用者ベース</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>123～130人</td> <td>120～125人</td> <td>133～142人</td> </tr> </tbody> </table>			03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出	最終需要	約12億円	約12.7億円	約12.1億円	約14.6億円	約13.8億円	経済波及効果	約23億円	約18.4億円	約17.6億円	約21.4億円	約20.2億円	誘発係数	—	1.45	1.45	1.47	1.46	貸館事業、貸館観客の消費支出	最終需要(参考値)	—	約7.5～8.9億円	約5.9～6.7億円	約4.6～5.3億円	約5.7～6.5億円	経済波及効果(参考値)	—	約9.8～11.9億円	約7.9～8.9億円	約6.2～7.0億円	約7.6～8.7億円	雇用効果	就業者ベース	—	—	145～151人	140～145人	156～165人	雇用者ベース	—	—	123～130人	120～125人	133～142人	<ul style="list-style-type: none"> 劇場の事業規模に応じた経済効果が発生。 観劇に伴う観客の消費活動も活発。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 所得増、雇用増、税収増の試算。 貸館に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。
		03年度	04年度	05年度	06年度	07年度																																																	
運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出	最終需要	約12億円	約12.7億円	約12.1億円	約14.6億円	約13.8億円																																																	
	経済波及効果	約23億円	約18.4億円	約17.6億円	約21.4億円	約20.2億円																																																	
	誘発係数	—	1.45	1.45	1.47	1.46																																																	
貸館事業、貸館観客の消費支出	最終需要(参考値)	—	約7.5～8.9億円	約5.9～6.7億円	約4.6～5.3億円	約5.7～6.5億円																																																	
	経済波及効果(参考値)	—	約9.8～11.9億円	約7.9～8.9億円	約6.2～7.0億円	約7.6～8.7億円																																																	
雇用効果	就業者ベース	—	—	145～151人	140～145人	156～165人																																																	
	雇用者ベース	—	—	123～130人	120～125人	133～142人																																																	
<p>[パブリシティ効果] 劇場事業によって、北九州市の広報面でどのような効果があったか。</p>	<p>[2003年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞掲載件数:378件(全国紙掲載含む)、うち劇場事業関連記事(公演紹介・取材記事、劇評、劇場イベント紹介など):180件。パブリシティ効果の規模:約2億1,000万円(劇場事業関連記事のみ) <p>[2004年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞掲載件数:327件(全国紙掲載含む)、うち劇場事業関連記事:163件。 パブリシティ効果の規模:約1億7,700万円 <p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞掲載件数:331件(全国紙掲載含む)、うち劇場事業関連記事:159件。04年度と比較し、自主事業/共催事業、学芸事業関連の記事数が増加。パブリシティ効果の規模:約1億8,900万円 <p>[2006年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞掲載件数:331件(全国紙掲載含む)、うち劇場事業関連記事:163件。05年度と比較し、自主事業/共催事業に関する記事数が大きく増加。パブリシティ効果の規模:約2億2,000万円 <p>[2007年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞掲載件数:332件(全国紙掲載含む)、うち劇場事業関連記事:154件。全国展開型のプロデュース作品等の記事が全国で掲載された06年度と比較し、金額換算では減少。パブリシティ効果の規模:約1億1,000万円 	<ul style="list-style-type: none"> 劇場事業が毎月コンスタントに掲載されていること、地元劇団の活動紹介が増えていること、ネットワーク事業で全国の地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がり进行评估。 パブリシティ効果は、市の事業補助金(07年度:約1億2,000万円)とほぼ同じ規模。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続調査の実施。 																																																				
<p>[その他の効果] 劇場運営に伴い、その他、どのような派生的効果があったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 未調査 	<ul style="list-style-type: none"> 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> その他の派生効果の洗い出し、評価項目、評価指標等の検討。 																																																				

4. 劇場運営に伴う派生的効果に対する評価